

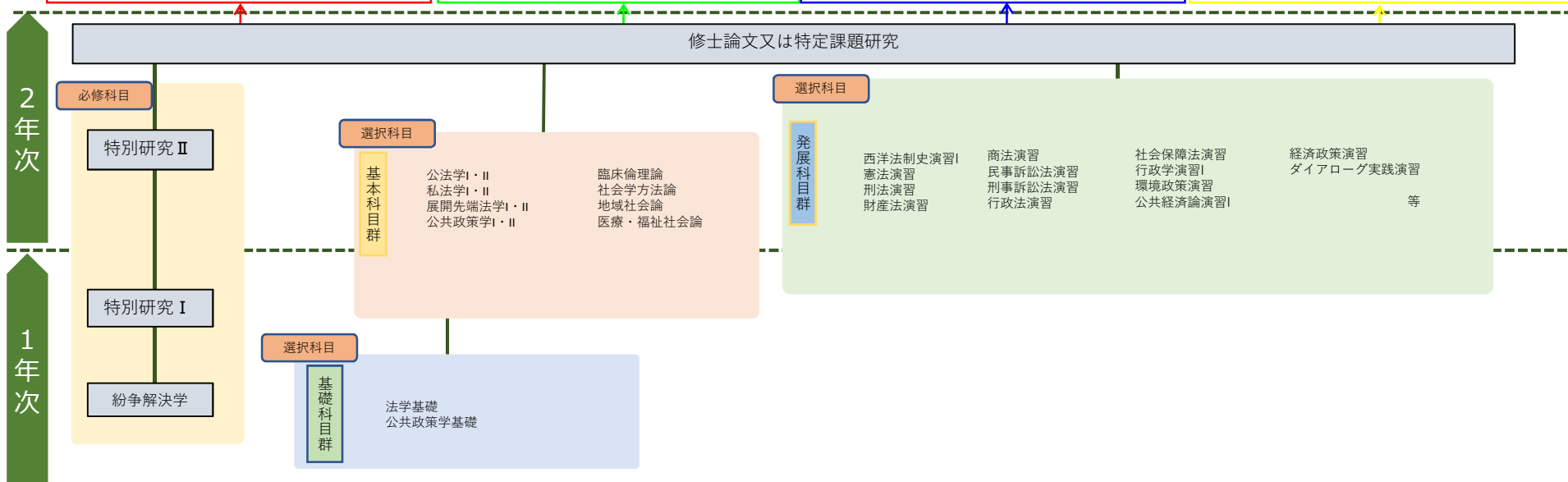
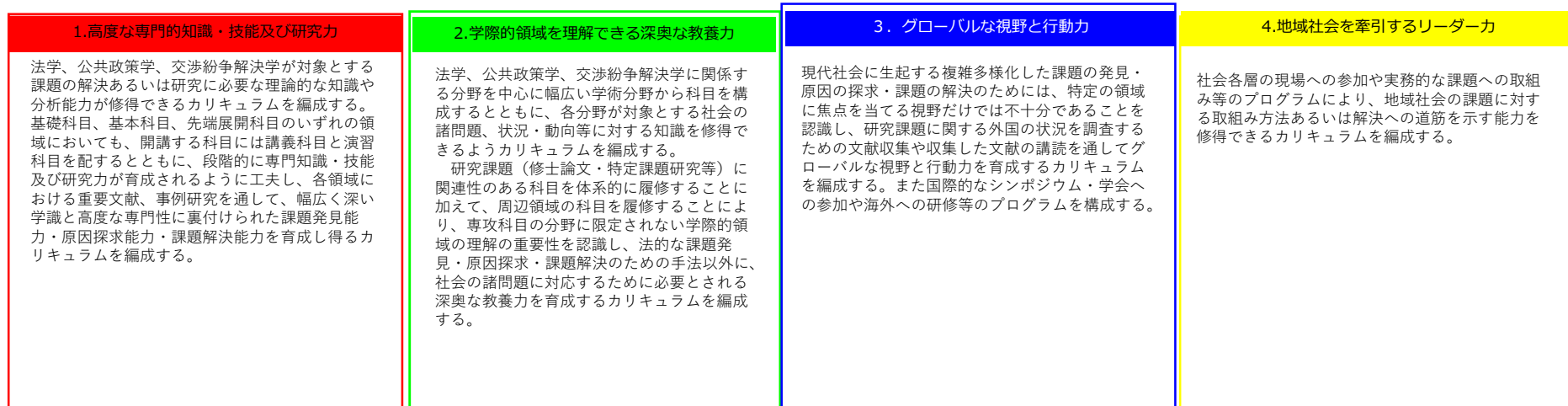
# 社会文化科学教育部前期課程 法政・紛争解決学専攻 法政・紛争解決学研究コース カリキュラムツリー

## ディプロマポリシー：

当該課程の標準修業年限2年以上在学し、特別研究Ⅰ（4単位）及び指定されている必修科目を含めて26単位以上修得し、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文又は特定の課題に関する研究成果の審査及び最終試験に合格すれば特別研究Ⅱ（4単位）が認定され、本専攻を修了することができる。修了した者には、修士の学位が授与される。ただし、1年コース在学者は1年の在学で修了することができる。

## カリキュラムポリシー：

法学、政治学、行政学、政策科学、経済学、交渉紛争解決学等に関連する幅広い学術分野の科目や実践的な科目、現場への参加や実務的な課題への取組み等のプログラムを組み合わせることにより、法、公共政策、紛争解決に関する課題の解決に実践的に取組む、あるいは研究するために必要な知識・能力の修得を目指す。法政・紛争解決学研究コースでは、法学、公共政策学、交渉紛争解決学の基礎的研究能力と、幅広い視野とスキルを兼ね備えた国際的に通用する法学、政策学、交渉紛争解決学の研究者としての能力の修得を目指したカリキュラムを編成する。



2  
年次

1  
年次

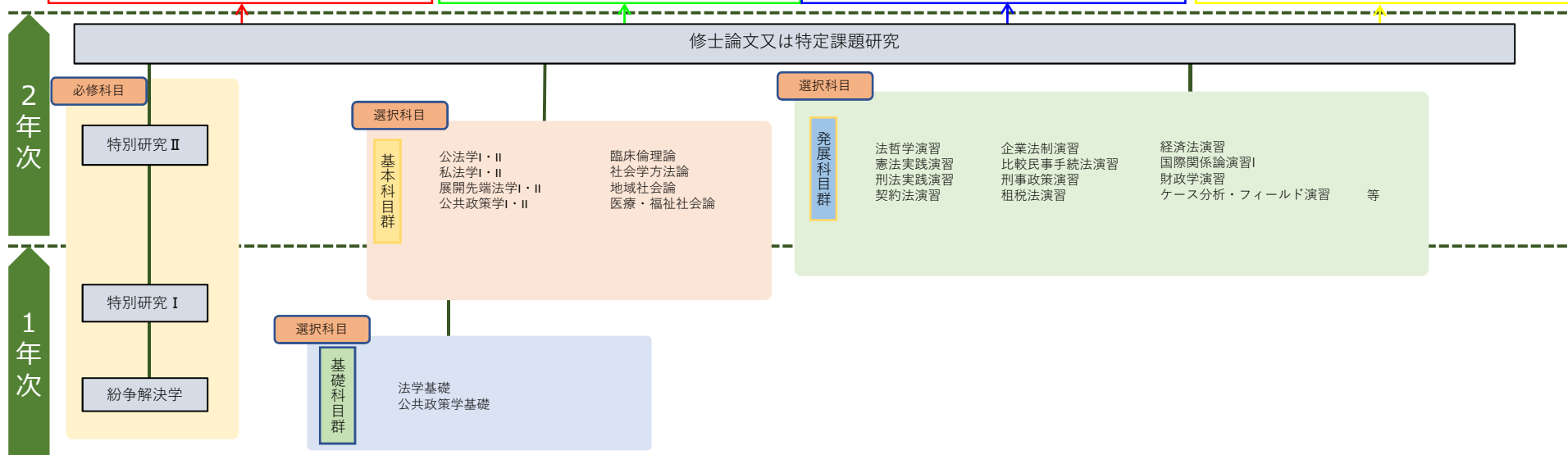
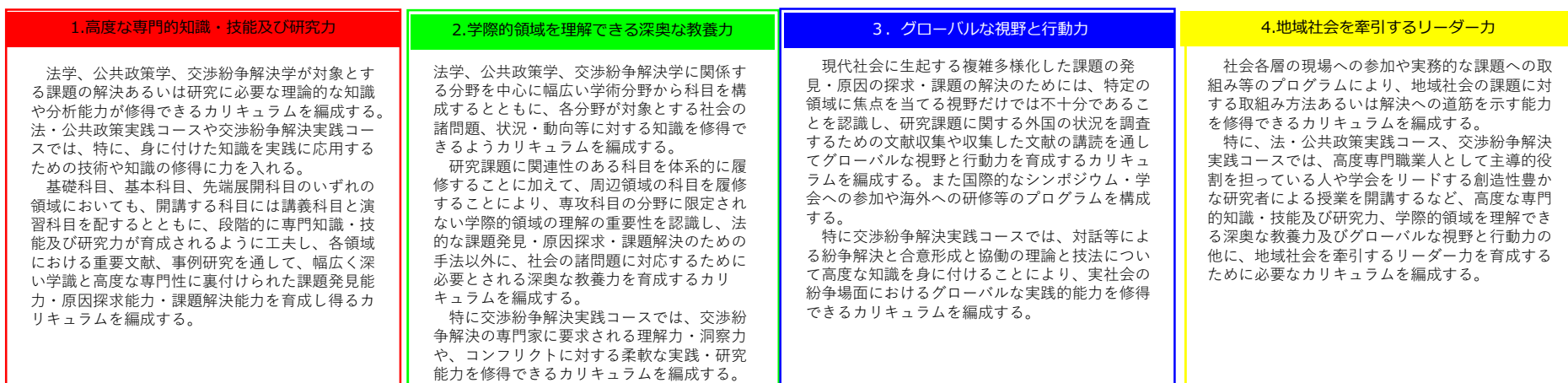
# 社会文化科学教育部前期課程 法政・紛争解決学専攻 法・公共政策実践コース カリキュラムツリー

## ディプロマポリシー：

当該課程の標準修業年限2年以上在学し、特別研究I（4単位）及び指定されている必修科目を含めて26単位以上修得し、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文又は特定の課題に関する研究の成果の審査及び最終試験に合格すれば特別研究II（4単位）が認定され、本専攻を修了することができる。修了した者には、修士の学位が授与される。ただし、1年コース在学者は1年の在学中で修了することができる。

## カリキュラムポリシー：

法学、政治学、行政学、政策科学、経済学、交渉紛争解決学等に関連する幅広い学術分野の科目や実践的な科目、現場への参加や実務的な課題への取り組み等のプログラムを組み合わせることにより、法、公共政策、紛争解決に関する課題の解決に実践的に取り組む、あるいは研究するために必要な知識・能力の修得を目指す。法・公共政策実践コースでは、現代社会に生起する複雑多様化した法的・公共政策的諸問題の理論的解決を図ることができる高度専門職業人として法、公共政策に関する理論や法解釈力、政策分析能力、政策形成のための知識と技術、企画・運営能力の修得を目指したカリキュラムを編成する。



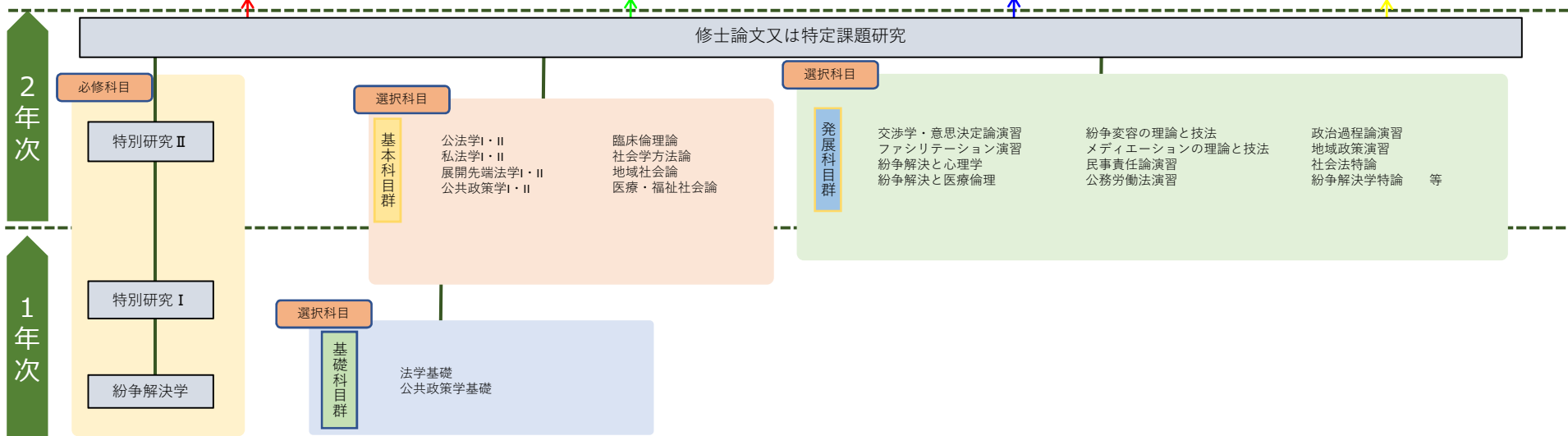
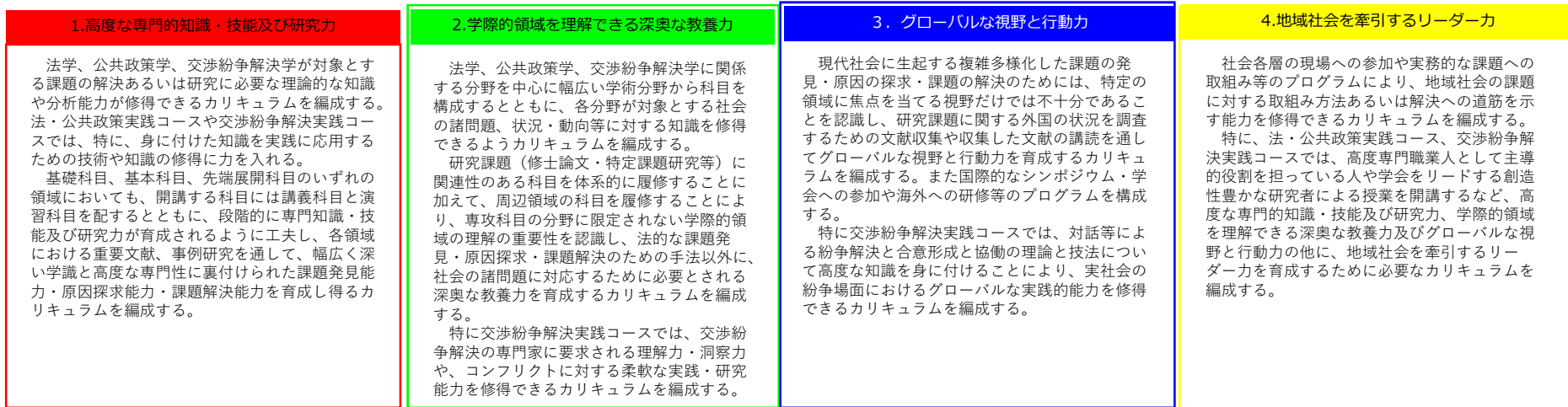
# 社会文化科学教育部前期課程 法政・紛争解決学専攻 交渉紛争解決実践コース カリキュラムツリー

## ディプロマポリシー：

当該課程の標準修業年限2年以上在学し、特別研究Ⅰ（4単位）及び指定されている必修科目を含めて26単位以上修得し、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文又は特定の課題に関する研究の成果の審査及び最終試験に合格すれば特別研究Ⅱ（4単位）が認定され、本専攻を修了することができる。修了した者には、修士の学位が授与される。ただし、1年コース在学者は1年の在学で修了することができる。

## カリキュラムポリシー：

法学、政治学、行政学、政策科学、経済学、交渉紛争解決学等に関連する幅広い学術分野の科目や実践的な科目、現場への参加や実務的な課題への取り組み等のプログラムを組み合わせることにより、法、公共政策、紛争解決に関する課題の解決に実践的に取り組む、あるいは研究するために必要な知識・能力の修得を目指す。交渉紛争解決実践コースでは、紛争変容論、ダイアログ実践論、交渉論、平和構築論などの視点から、問題事例・対話事例・紛争解決事例の分析を重ね、対話等による紛争解決と合意形成と協働の理論と技法について高度な知識を修得できるカリキュラムを編成する。



# 社会文化科学教育部前期課程 熊本大学・マサチューセッツ州立大学ボストン校紛争解決学国際連携専攻 カリキュラムツリー

## ディプロマポリシー：

当該課程を2年以上在学し、合計で36単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受け、修士論文又は特定の課題について研究の成果の審査及び最終試験に合格することにより、本専攻を修了することができる。修了した者には、両大学連名による単一の学位（ジョイントディグリー）として、修士の学位が授与される。

## カリキュラムポリシー：

本専攻は、紛争解決学の教育に関して、日米双方の紛争解決の制度と課題を学び、国際的視野に立ち、紛争を価値変容の機会と捉え、グローバルな課題解決への取組や役割を担う人材を育成するために、熊本大学とマサチューセッツ州立大学ボストン校の共同カリキュラムを次のような方針に沿って作成し、実施する。

- (1) 2年間の履修にかかる科目群を、<基礎科目群><応用科目群><インターンシップ><特別研究A、B>に分けて置く。
- (2) 学生は、2年間の履修の前半で、紛争解決学の基礎知識を得る科目を履修する。また両大学による共同開設科目を置いて、理論的理解の統一を図る。
- (3) 応用的理論と技法についての科目を後半に置く。また熊本を始めとした地域紛争に関する科目を応用科目群として位置づけ、日米の紛争の違いを俯瞰できるようにする。
- (4) 実践的な科目としてインターンシップを必修として置く。
- (5) 熊本大学及びマサチューセッツ州立大学ボストン校の共同の研究指導のもと、特別研究A、Bを履修する。

### 1. 高度な専門的知識・技能及び研究力

紛争解決学における多様な紛争理論と、その理論に基づく解決手法に関する専門知識を幅広く持ち、現代社会の様々な紛争現象を適切に分析し、その解決のためのプロセスをデザインし、実施・評価することのできるようカリキュラムを編成する。  
また、紛争と集団、紛争と文化、紛争と暴力、紛争と国家・国際関係、紛争の拡大と膠着、正義などの諸理論を学び、こうした理論的学修に加えて、交渉、調停、合意形成ワークショップなどの実践を体験し、紛争解決のプロセスをデザインするスキルを修得できるカリキュラムを編成する。

### 2. 学際的領域を理解できる深奥な教養力

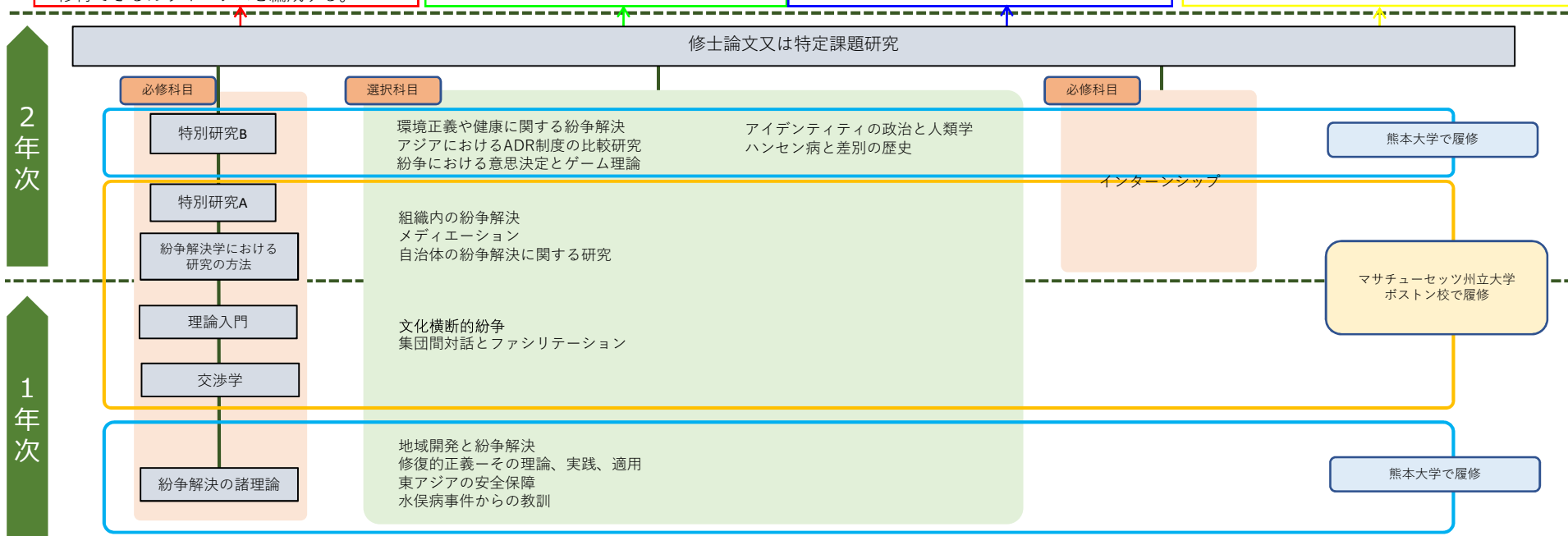
ジョイント・ディグリーの強みを生かし、文化的背景の異なる、多様なバックグラウンドをもった学生たちと紛争とは何か、その解決とは何かを学ぶことができるようカリキュラムを編成する。  
また、インターンシップなどの活動を通じて、課題に協調して取り組む体験を積み、日本という同質性の高い空間で学ぶよりも、文化的背景などの違いをもった学生たちと学び合うことができる。

### 3. グローバルな視野と行動力

日米の大学のジョイントという強みを生かし、特に、日米双方の紛争文化とその解決制度に精通し、それぞれの国内での紛争と両国間の紛争について、適切に分析し、日米間の相互理解を進める能力を修得できるカリキュラムを編成する。

### 4. 地域社会を牽引するリーダー力

近年の紛争解決学のパラダイム（コンフリクト・トランスフォーメーション）では、紛争は、関係性、組織や地域、社会の在り方が変化を必要とするとき、その変化の兆しを示すものである、と考えられている。こうした理解を背景として、本専攻での学びを新たな社会的価値の創造に結びつけることができるカリキュラムを編成する。



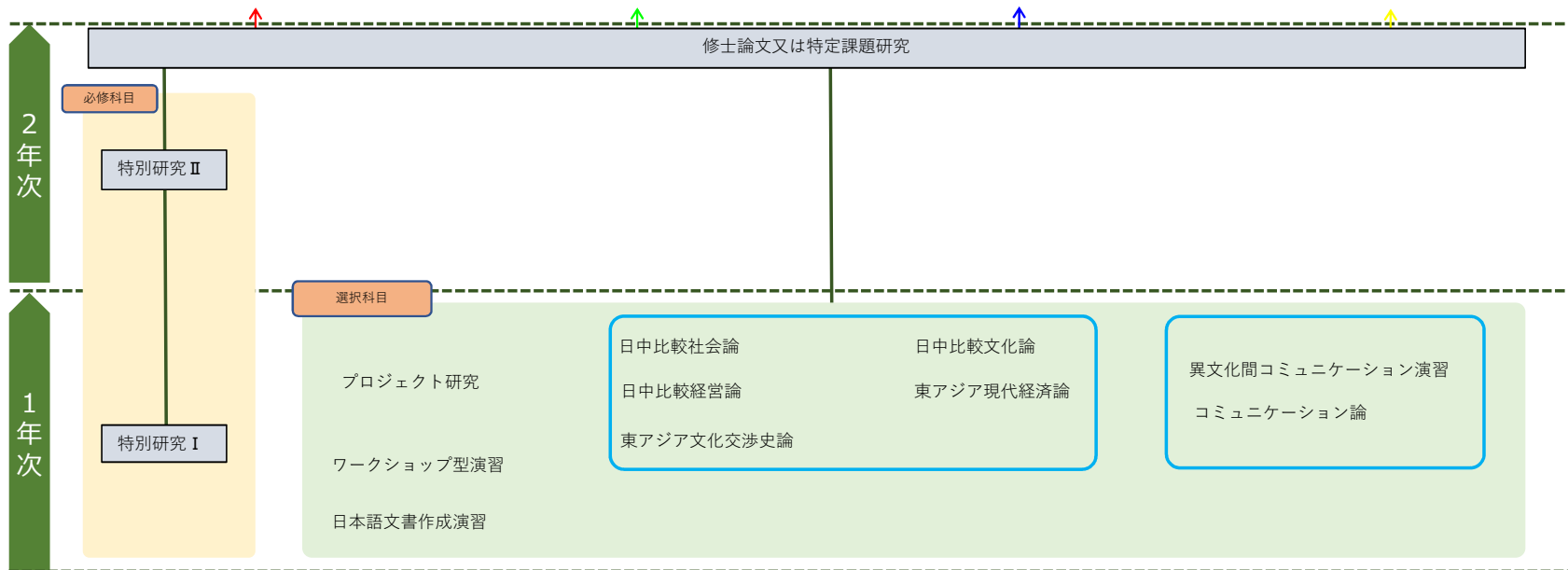
## 社会文化科学教育部前期課程 現代社会人間学専攻 東アジア・ビジネス・コミュニケーション専門職コース カリキュラムツリー

### ディプロマポリシー：

当該課程の標準修業年限2年以上在学し、特別研究I（4単位）及び指定されている必修科目を含めて26単位以上修得し、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文又は特定の課題に関する研究の成果の審査及び最終試験に合格すれば特別研究II（4単位）が認定され、本専攻を修了することができる。修了した者には、修士の学位が授与される。

カリキュラムポリシー：コミュニケーション情報学、比較文化・社会論、哲学、倫理学、社会学、言語学、地理学、芸術学、心理学、文化人類学等広範囲な学術領域及びそれらを融合して構築される諸領域において、学際的な研究の発展を担うために必要な知識・能力を修得できるカリキュラムを編成する。授業科目は、主として(1)特別研究I（1年次の必修科目であり、最新の理論や実践の成果を扱うゼミナールと研究計画・経過の発表討論を行う）、(2)個別演習（各専門的な分野に即した調査・分析能力の強化を目標とする科目であり、内容に応じてゼミナール、フィールドワークまたはワークショップが行われる）、(3)特別研究II（複数の指導教員からの修士論文作成に向けての個別指導）からなる。これらに加えて、教員と学生の共同研究プロジェクト（「プロジェクト研究」として単位化）を実施している。

1. 高度な専門的知識・技能及び研究力	2. 学際的領域を理解できる深奥な教養力	3. グローバルな視野と行動力	4. 地域社会を牽引するリーダー力
<p>日中比較社会論・経営論・文化論、日本語文書作成演習、コミュニケーション論・異文化間コミュニケーション演習、ワークショップ型演習など、日中両国の文化・社会・経済活動の特性や相違について幅広く理解した上で高度な日本語能力を駆使できるよう編成する。</p>	<p>異文化コミュニケーションなどにより、歴史的、地理的面から異文化研究に必要な人間科学及び社会科学に関する幅広い知識を修得できるカリキュラムを編成する。</p>	<p>語学力を基礎に日中間のみならず世界的なビジネス現場及び教育現場で活躍し得る実践的能力を修得できるカリキュラムを編成する。</p>	<p>地域社会に就職できる能力を修得できるカリキュラムを編成する。</p>



# 社会文化科学教育部前期課程 現代社会人間学専攻 先端倫理学研究コース カリキュラムツリー

## ディプロマポリシー：

当該課程の標準修業年限2年以上在学し、特別研究I（4単位）及び指定されている必修科目を含めて26単位以上修得し、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文又は特定の課題に関する研究の成果の審査及び最終試験に合格すれば特別研究II（4単位）が認定され、本専攻を修了することができる。修了した者には、修士の学位が授与される。

**カリキュラムポリシー：**コミュニケーション情報学、比較文化・社会論、哲学、倫理学、社会学、言語学、地理学、芸術学、心理学、文化人類学等広範囲な学術領域及びそれらを融合して構築される諸領域において、学際的な研究の発展を担うために必要な知識・能力を修得できるカリキュラムを編成する。授業科目は、主として(1)特別研究I（1年次の必修科目であり、最新の理論や実践的成果を扱うゼミナールと研究計画・経過の発表討論を行う）、(2)個別演習（各専門的な分野に即した調査・分析能力の強化を目標とする科目であり、内容に応じてゼミナール、フィールドワークまたはワークショップが行われる）、(3)特別研究II（複数の指導教員からの修士論文作成に向けての個別指導）からなる。これらに加えて、教員と学生の共同研究プロジェクト（「プロジェクト研究」として単位化）を実施している。

### 1. 高度な専門的知識・技能及び研究力

現代社会の倫理的諸問題を理論的・実証的に研究するために必要な、生命倫理学、環境倫理学、ビジネス倫理学、脳神経倫理学、政治哲学等の現代の倫理学に関する高度な知識とともに倫理学理論に関する高度な知識を修得できるカリキュラムを編成する。

### 2. 学際的領域を理解できる深奥な教養力

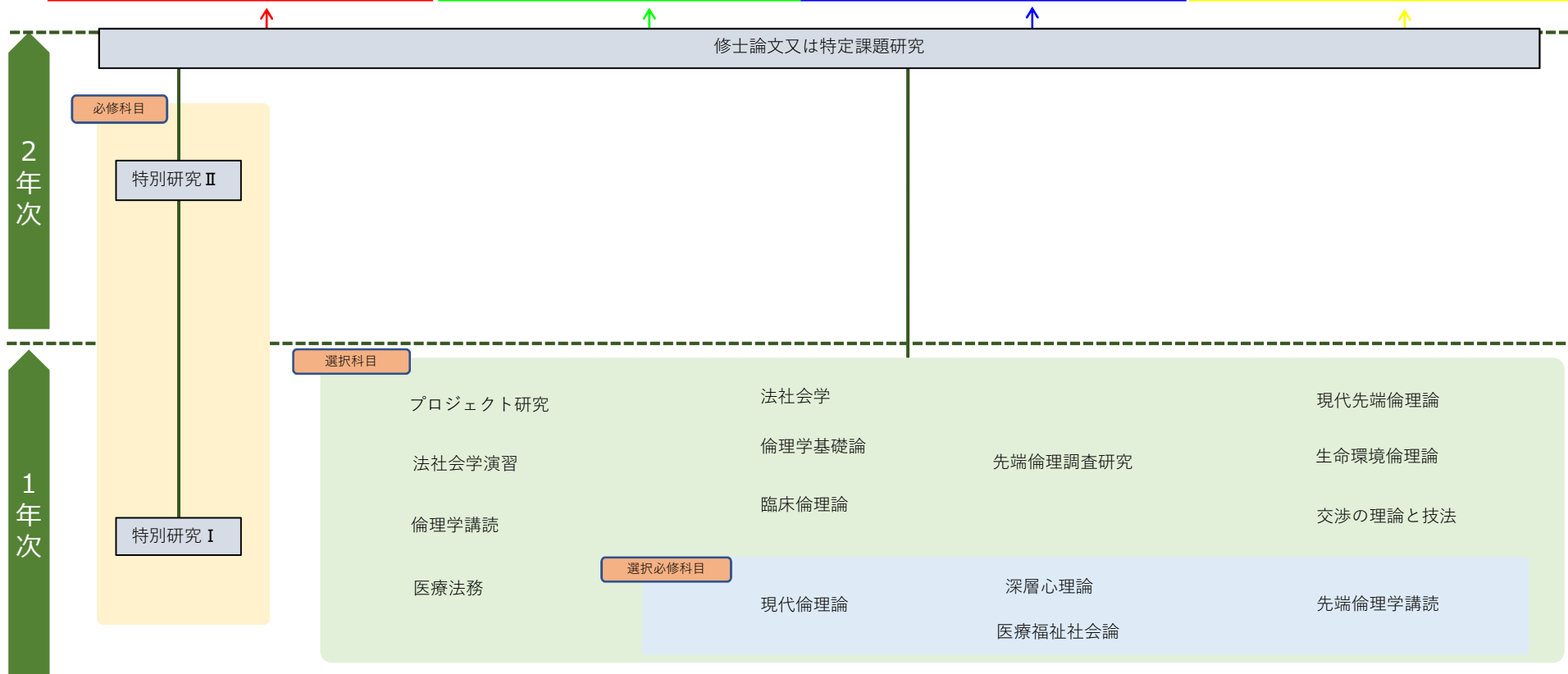
生命倫理学、環境倫理学、ビジネス倫理学、脳神経倫理学、政治哲学等の現代の倫理学の研究に不可欠な生命科学、自然科学、社会科学の幅広い知識を修得できるカリキュラムを編成する。

### 3. グローバルな視野と行動力

語学力を基礎に、世界における現代の倫理的諸問題の研究に必要な普遍的な視野を修得できるカリキュラムを編成する。

### 4. 地域社会を牽引するリーダーカ

現代の倫理的諸問題の研究において、普遍的視野と問題の生じる現場の知識を修得し、地域における倫理的諸問題解決に主導的に貢献する能力を修得できるカリキュラムを編成する。



# 社会文化科学教育部前期課程 現代社会人間学専攻 フィールドリサーチ研究コース カリキュラムツリー

## ディプロマポリシー：

当該課程の標準修業年限2年以上在学し、特別研究I（4単位）及び指定されている必修科目を含めて26単位以上修得し、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文又は特定の課題に関する研究の成果の審査及び最終試験に合格すれば特別研究II（4単位）が認定され、本専攻を修了することができる。修了した者には、修士の学位が授与される。

**カリキュラムポリシー：**コミュニケーション情報学、比較文化・社会論、哲学、倫理学、社会学、言語学、地理学、芸術学、心理学、文化人類学等広範囲な学術領域及びそれらを融合して構築される諸領域において、学際的な研究の発展を担うために必要な知識・能力を修得できるカリキュラムを編成する。授業科目は、主として(1)特別研究I（1年次の必修科目であり、最新の理論や実践的成果を扱うゼミナールと研究計画・経過の発表討論を行う）、(2)個別演習（各専門的な分野に即した調査・分析能力の強化を目標とする科目であり、内容に応じてゼミナール、フィールドワークまたはワークショップが行われる）、(3)特別研究II（複数の指導教員からの修士論文作成に向けての個別指導）からなる。これらに加えて、教員と学生の共同研究プロジェクト（「プロジェクト研究」として単位化）を実施している。

### 1. 高度な専門的知識・技能及び研究力

社会学・地域社会学・文化人類学・地理学・言語学・芸術学・比較文学のいずれかの分野における国内外のフィールドでの研究方法に関する高度な知識を持ち、研究課題に応じて調査を立案・実施し、報告書をまとめることを通じ、当該分野に新たな知見を加える能力を修得できるカリキュラムを編成する。

### 2. 学際的領域を理解できる深奥な教養力

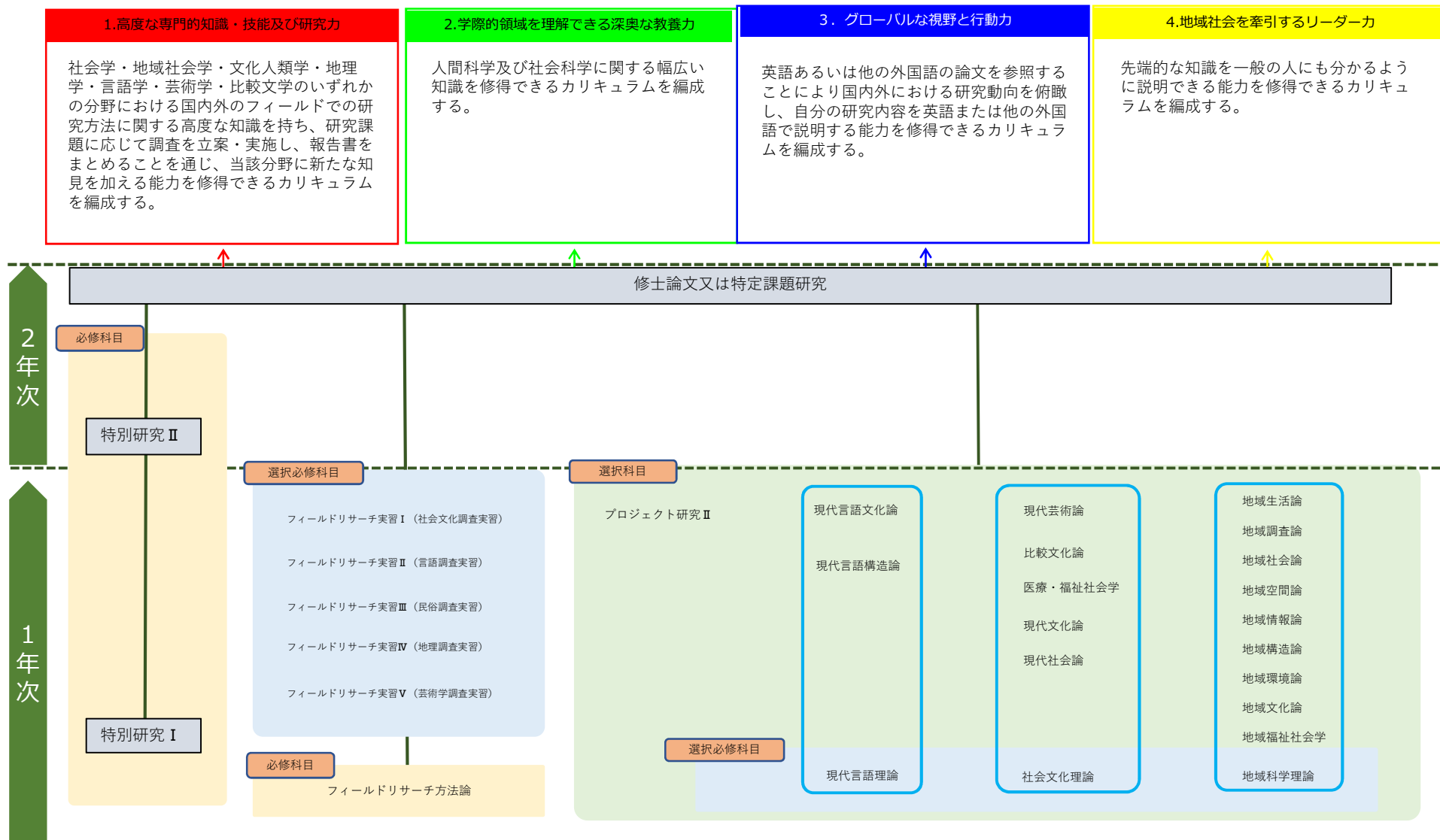
人間科学及び社会科学に関する幅広い知識を修得できるカリキュラムを編成する。

### 3. グローバルな視野と行動力

英語あるいは他の外国語の論文を参照することにより国内外における研究動向を俯瞰し、自分の研究内容を英語または他の外国語で説明する能力を修得できるカリキュラムを編成する。

### 4. 地域社会を牽引するリーダー力

先端的な知識を一般の人にも分かるように説明できる能力を修得できるカリキュラムを編成する。



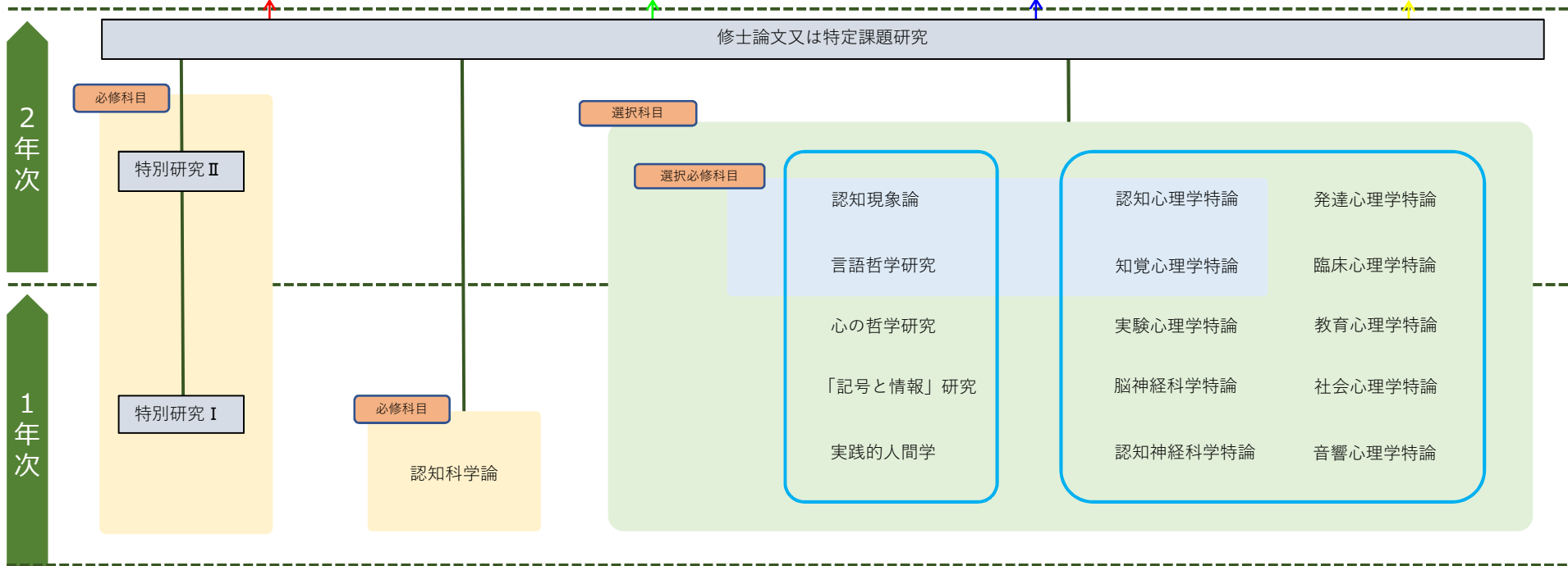
# 社会文化科学教育部前期課程 現代社会人間学専攻 認知哲学・心理学研究コース カリキュラムツリー

## ディプロマポリシー：

当該課程の標準修業年限2年以上在学し、特別研究I（4単位）及び指定されている必修科目を含めて26単位以上修得し、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文又は特定の課題に関する研究の成果の審査及び最終試験に合格すれば特別研究II（4単位）が認定され、本専攻を修了することができる。修了した者には、修士の学位が授与される。

**カリキュラムポリシー：**コミュニケーション情報学、比較文化・社会論、哲学、倫理学、社会学、言語学、地理学、芸術学、心理学、文化人類学等広範囲な学術領域及びそれらを融合して構築される諸領域において、学際的な研究の発展を担うために必要な知識・能力を修得できるカリキュラムを編成する。授業科目は、主として(1)特別研究I（1年次の必修科目であり、最新の理論や実践的成果を扱うゼミナールと研究計画・経過の発表討論を行う）、(2)個別演習（各専門的な分野に即した調査・分析能力の強化を目標とする科目であり、内容に応じてゼミナール、フィールドワークまたはワークショップが行われる）、(3)特別研究II（複数の指導教員からの修士論文作成に向けての個別指導）からなる。これらに加えて、教員と学生の共同研究プロジェクト（「プロジェクト研究」として単位化）を実施している。

1. 高度な専門的知識・技能及び研究力	2. 学際的領域を理解できる深奥な教養力	3. グローバルな視野と行動力	4. 地域社会を牽引するリーダー力
哲学あるいは心理学を深く研究し、人間の諸問題を論理的・実証的に解決する能力を養う。認知心理学では行動測定を通して心の働きを実証的に調べるために必要な知識と実験的スキルを修得できるカリキュラムを編成する。	認知科学及び隣接諸科学に関する高度な知識を修得できるカリキュラムを編成する。	英語で読み書き話す力を身に付け、認知心理学においては、海外での学会発表もできる能力を修得できるカリキュラムを編成する	先端的な知識を一般の人にも分かるように説明できる能力を修得できるカリキュラムを編成する。





# 社会文化科学教育部前期課程 文化学専攻 文化行政・学芸員専門職コース カリキュラムツリー

## ディプロマポリシー：

当該課程の標準修業年限2年以上在学し、特別研究I（4単位）及び指定されている必修科目を含めて26単位以上修得し、必要な研究指導を受けたうえで、修士論文又は特定の課題に関する研究の成果の審査及び最終試験に合格すれば特別研究II（4単位）が認定され、本専攻を修了することができる。修了した者には、修士の学位が授与される。

カリキュラムポリシー：本専攻は、文化行政・学芸員専門職コース、高校国語教員専門職コース、英語教育専門職コースの3専門職コースと歴史学研究コース、日本・東アジア文化学研究コース、欧米文化学研究コース、現代文化資源学コースの4研究コースからなる。歴史学・考古学・民俗学・言語・文学等の諸領域において、専門職コースでは、学術的知見を基盤に実践的能力を養い高度専門職業人を養成する観点から、履修計画に従った科目を段階的に設定し、研究コースでは、それぞれの学術領域の基礎を修め、博士後期課程において専門を深めうる研究の担い手を養成する観点からカリキュラムを編成している。1年次にタームペーパー、2年次に修士論文等を提出する。

### 1. 高度な専門的知識・技能及び研究力

本専攻では、歴史学、考古学、民俗学、日本・東アジアの言語と文学、欧米の言語と文学、英語教育学、現代文化資源学の諸領域について専門的知識を獲得するためにカリキュラムを編成している。文化行政・学芸員、高校国語教員、英語教育の各専門職コースにおいては、加えて実習、演習等の実践的なカリキュラムを、歴史学、日本・東アジア文化学、欧米文化学、現代文化資源学の各研究コースでは、文献・史料の読解・分析能力を修得するようカリキュラムを編成している。

### 2. 学際的領域を理解できる深奥な教養力

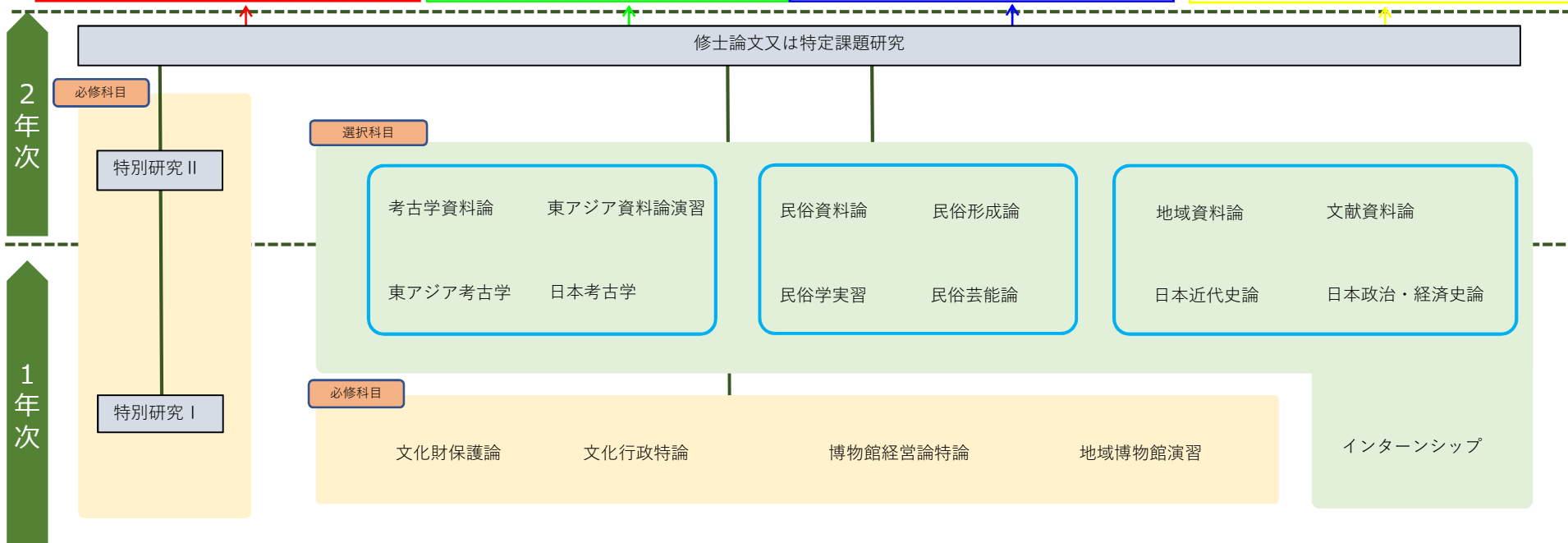
文化行政・学芸員専門職コースでは、文化財行政等に関する共通プログラムと専門教育プログラムを組み合わせ、高校国語教員専門職コースでは、関連科目を幅広く、英語教育専門職コースでは、言語学・教育学・心理学等の学際的領域と関わる科目を履修させている。研究コースでは、日本、東アジア、欧米の文化を分野横断的及び学際的に捉え研究できる能力を育成しており、専攻としてカリキュラムを学際的に構成している。

### 3. グローバルな視野と行動力

グローバルな実践能力を修得するカリキュラムを編成している。英語教育専門職コースでは、異文化理解のための教育実践能力を高める科目を提供している。日本、東アジアを含む広い視野に立脚した研究能力を修得するため、歴史学研究コースと現代文化資源学研究コースでは実習・実地調査を、日本・東アジア文化学研究コースでは、フィールドワーク等の方法論を実施する。欧米文化学研究コースでは、外国の大学等での修得単位を修了要件単位に算入している。

### 4. 地域社会を牽引するリーダー力

地域のリーダー力を育成するカリキュラムを編成している。文化行政・学芸員専門職コースでは、地域の文化行政を担当する能力の修得を目的として、インターンシップ等カリキュラム化している。高校国語教員、英語教育専門職コースでは、地域の現職高校教員を対象に、実践的指導力を育成する演習科目等を提供している。歴史学研究コースでは、地域の歴史研究とともに、遺跡や古文書、地域の民俗を対象とした調査実習を行っている。現代文化資源学研究コースでは、国・地方公共団体、地元企業等と協力した文化事業への参画の機会を、実習等を通じて提供する。



# 社会文化科学教育部前期課程 文化学専攻 高校国語教員専門職コース カリキュラムツリー

## ディプロマポリシー：

当該課程の標準修業年限2年以上在学し、特別研究I（4単位）及び指定されている必修科目を含めて26単位以上修得し、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文又は特定の課題に関する研究の成果の審査及び最終試験に合格すれば特別研究II（4単位）が認定され、本専攻を修了することができる。修了した者には、修士の学位が授与される。

**カリキュラムポリシー：**本専攻は、文化行政・学芸員専門職コース、高校国語教員専門職コース、英語教育専門職コースの3専門職コースと歴史学研究コース、日本・東アジア文化学研究コース、欧米文化学研究コース、現代文化資源学研究コースの4研究コースからなる。歴史学・考古学・民俗学・言語・文学等の諸領域において、専門職コースでは、学術的知見を基盤に実践的能力を養い高度専門職業人を養成する観点から、履修計画に従った科目を段階的に設定し、研究コースでは、それぞれの学術領域の基礎を修め、博士後期課程において専門を深めうる研究の担い手を養成する観点からカリキュラムを編成している。1年次にタームペーパー、2年次に修士論文等を提出する。

### 1. 高度な専門的知識・技能及び研究力

本専攻では、歴史学、考古学、民俗学、日本・東アジアの言語と文学、欧米の言語と文学、英語教育学、現代文化資源学の諸領域について専門的知識を獲得するためにカリキュラムを編成している。文化行政・学芸員、高校国語教員、英語教育の各専門職コースにおいては、加えて実習、演習等の実践的なカリキュラムを、歴史学、日本・東アジア文化学、欧米文化学、現代文化資源学の各研究コースでは、文献・史料の読解・分析能力を修得するようカリキュラムを編成している。

### 2. 学際的領域を理解できる深奥な教養力

文化行政・学芸員専門職コースでは、文化財行政等に関する共通プログラムと専門教育プログラムを組み合わせ、高校国語教員専門職コースでは、関連科目を幅広く、英語教育専門職コースでは、言語学・教育学・心理学等の学際的領域と関わる科目を履修させている。研究コースでは、日本、東アジア、欧米の文化を分野横断的及び学際的に捉え研究できる能力を育成しており、専攻としてカリキュラムを学際的に構成している。

### 3. グローバルな視野と行動力

グローバルな実践能力を修得するカリキュラムを編成している。英語教育専門職コースでは、異文化理解のための教育実践能力を高める科目を提供している。日本、東アジアを含む広い視野に立脚した研究能力を修得するため、歴史学研究コースと現代文化資源学研究コースでは実習・実地調査を、日本・東アジア文化学研究コースでは、フィールドワーク等の方法論を実施する。欧米文化学研究コースでは、外国の大学等での修得単位を修了要件単位に算入している。

### 4. 地域社会を牽引するリーダーカ

地域のリーダー力を育成するカリキュラムを編成している。文化行政・学芸員専門職コースでは、地域の文化行政を担当する能力の修得を目的として、インターンシップ等をカリキュラム化している。高校国語教員、英語教育専門職コースでは、地域の現職高校教員を対象に、実践的指導力を育成する演習科目等を提供している。歴史学研究コースでは、地域の歴史研究とともに、遺跡や古文書、地域の民俗を対象とした調査実習を行っている。現代文化資源学研究コースでは、国・地方公共団体、地元企業等と協力した文化事業への参画の機会を、実習等を通じて提供する。

## 修士論文又は特定課題研究

2年次

必修科目

特別研究 II

必修科目

日本近現代文学研究と高校国語

選択科目

読みの方法と実践

日本文学史論

日本古典文学研究と高校国語

日本文化論

中国古典文学研究と高校国語

中国古典文学論

中国古典言語論

1年次

特別研究 I

日本語研究と高校国語

日本語構造論

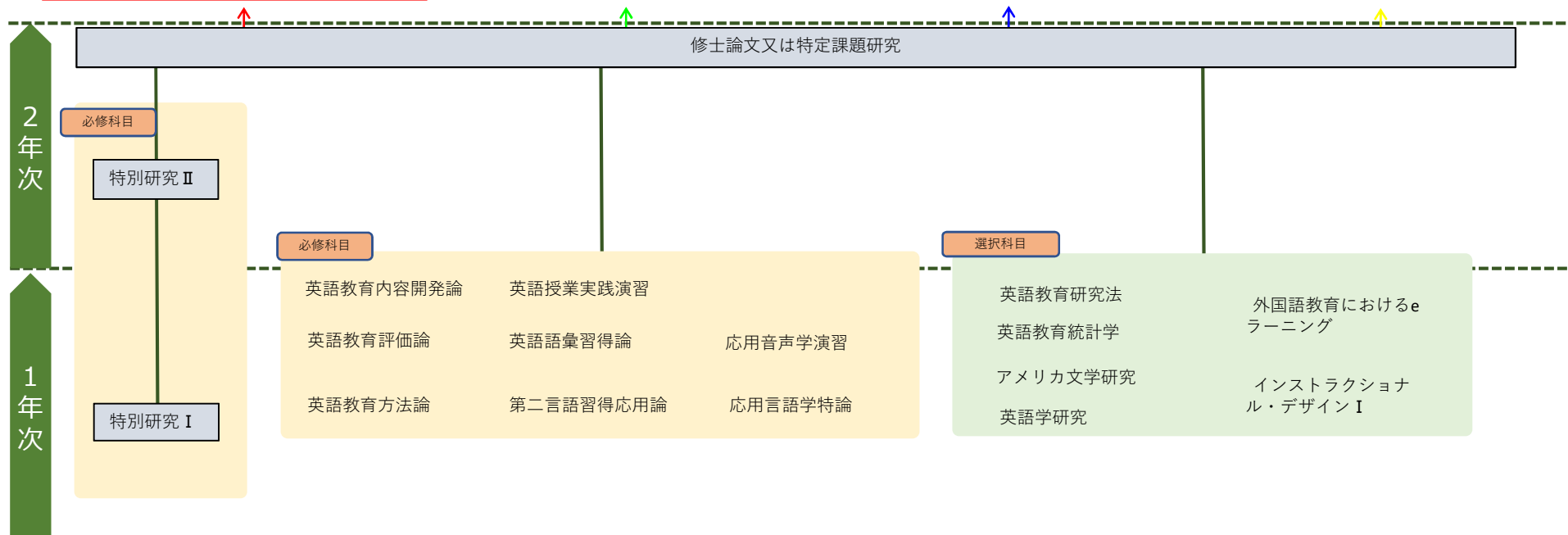
# 社会文化科学教育部前期課程 文化学専攻 英語教育専門職コース カリキュラムツリー

## ディプロマポリシー：

当該課程の標準修業年限2年以上在学し、特別研究Ⅰ（4単位）及び指定されている必修科目を含めて26単位以上修得し、必要な研究指導を受けたうえで、修士論文又は特定の課題に関する研究の成果の審査及び最終試験に合格すれば特別研究Ⅱ（4単位）が認定され、本専攻を修了することができる。修了した者には、修士の学位が授与される。

カリキュラムポリシー：本専攻は、文化行政・学芸員専門職コース、高校国語教員専門職コース、英語教育専門職コースの3専門職コースと歴史学研究コース、日本・東アジア文化学研究コース、欧米文化学研究コース、現代文化資源学研究コースの4研究コースからなる。歴史学・考古学・民俗学・言語・文学等の諸領域において、専門職コースでは、学術的知見を基盤に実践的能力を養い高度専門職業人を養成する観点から、履修計画に従った科目を段階的に設定し、研究コースでは、それぞれの学術領域の基礎を修め、博士後期課程において専門を深めうる研究の担い手を養成する観点からカリキュラムを編成している。1年次にタームペーパー、2年次に修士論文等を提出する。

1. 高度な専門的知識・技能及び研究力	2. 学際的領域を理解できる深奥な教養力	3. グローバルな視野と行動力	4. 地域社会を牽引するリーダー力
<p>本専攻では、歴史学、考古学、民俗学、日本・東アジアの言語と文学、欧米の言語と文学の諸領域について専門的知識を獲得するためにカリキュラムを編成している。文化行政・学芸員、高校国語教員、英語教育の各専門職コースにおいては、加えて実習、演習等の実践的なカリキュラムを、歴史学、日本・東アジア文化学、欧米文化学、現代文化資源学の各研究コースでは、文献・史料の読解・分析能力を修得するようカリキュラムを編成している。</p>	<p>文化行政・学芸員専門職コースでは、文化財行政等に関する共通プログラムと専門教育プログラムを組み合わせ、高校国語教員専門職コースでは、関連科目を幅広く、英語教育専門職コースでは、言語学・教育学・心理学等の学際的領域と関わる科目を履修させている。研究コースでは、日本、東アジア、欧米の文化を分野横断的及び学際的に捉え研究できる能力を育成しており、専攻としてカリキュラムを学際的に構成している。</p>	<p>グローバルな実践能力を修得するカリキュラムを編成している。英語教育専門職コースでは、異文化理解のための教育実践能力を高める科目を提供している。日本、東アジアを含む広い視野に立脚した研究能力を修得するため、歴史学研究コースと現代文化資源学研究コースでは実習・実地調査を、日本・東アジア文化学研究コースでは、フィールドワーク等の方法論を実施する。欧米文化学研究コースでは、外国の大学等での修得単位を修了要件単位に算入している。</p>	<p>地域のリーダー力を育成するカリキュラムを編成している。文化行政・学芸員専門職コースでは、地域の文化行政を担当する能力の修得を目的として、インターンシップ等カリキュラム化している。高校国語教員、英語教育専門職コースでは、地域の現職高校教員を対象に、実践的指導力を育成する演習科目等を提供している。歴史学研究コースでは、地域の歴史研究とともに、遺跡や古文書、地域の民俗を対象とした調査実習を行っている。現代文化資源学研究コースでは、国・地方公共団体、地元企業等と協力した文化事業への参画の機会を、実習等を通じて提供する。</p>

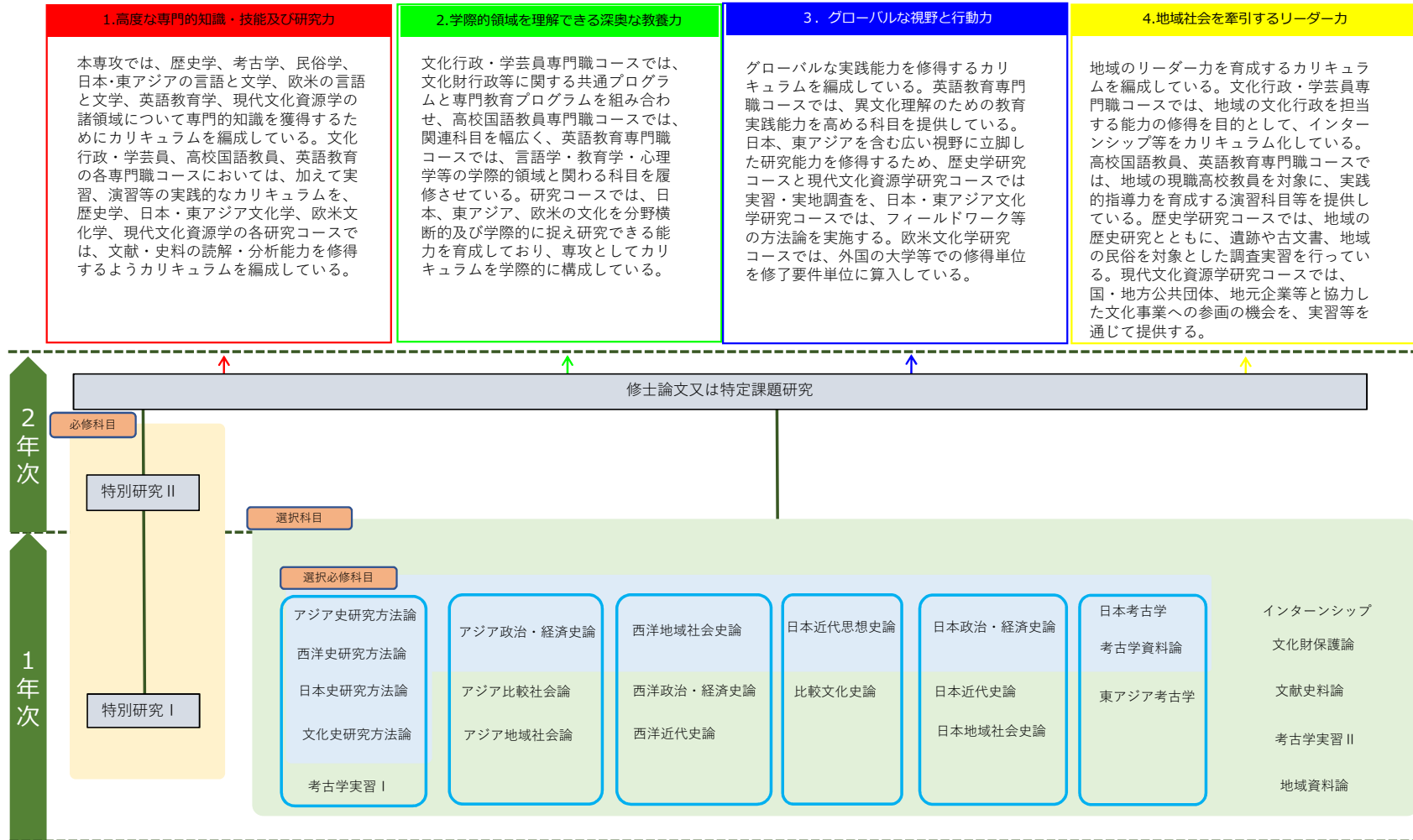


## 社会文化科学教育部前期課程 文化学専攻 歴史学研究コース カリキュラムツリー

### ディプロマポリシー：

当該課程の標準修業年限2年以上在学し、特別研究I（4単位）及び指定されている必修科目を含めて26単位以上修得し、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文又は特定の課題に関する研究の成果の審査及び最終試験に合格すれば特別研究II（4単位）が認定され、本専攻を修了することができる。修了した者には、修士の学位が授与される。

カリキュラムポリシー：本専攻は、文化行政・学芸員専門職コース、高校国語教員専門職コース、英語教育専門職コースの3専門職コースと歴史学研究コース、日本・東アジア文化学研究コース、欧米文化学研究コース、現代文化資源学研究コースの4研究コースからなる。歴史学・考古学・民俗学・言語・文学等の諸領域において、専門職コースでは、学術的知見を基盤に実践的能力を養い高度専門職業人を養成する観点から、履修計画に従った科目を段階的に設定し、研究コースでは、それぞれの学術領域の基礎を修め、博士後期課程において専門を深めうる研究の担い手を養成する観点からカリキュラムを編成している。1年次にタームペーパー、2年次に修士論文等を提出する。



# 社会文化科学教育部前期課程 文化学専攻 日本・東アジア文化学研究コース カリキュラムツリー

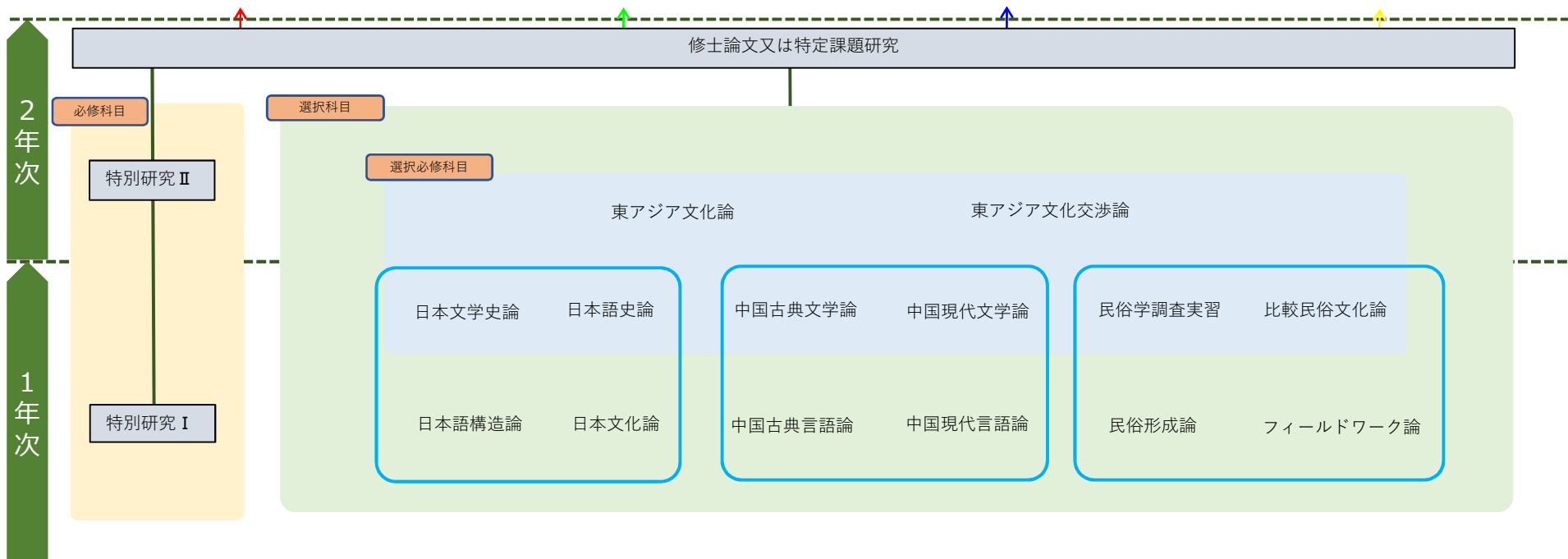
## ディプロマポリシー：

当該課程の標準修業年限2年以上在学し、特別研究I（4単位）及び指定されている必修科目を含めて26単位以上修得し、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文又は特定の課題に関する研究の成果の審査及び最終試験に合格すれば特別研究II（4単位）が認定され、本専攻を修了することができる。修了した者には、修士の学位が授与される。

## カリキュラムポリシー：

本専攻は、文化行政・学芸員専門職コース、高校国語教員専門職コース、英語教育専門職コースの3専門職コースと歴史学研究コース、日本・東アジア文化学研究コース、欧米文化学研究コース、現代文化資源学研究コースの4研究コースからなる。歴史学・考古学・民俗学・言語・文学等の諸領域において、専門職コースでは、学術的知見を基盤に実践的能力を養い高度専門職業人を養成する観点から、履修計画に従った科目を段階的に設定し、研究コースでは、それぞれの学術領域の基礎を修め、博士後期課程において専門を深めうる研究の担い手を養成する観点からカリキュラムを編成している。1年次にタームペーパー、2年次に修士論文等を提出する。

1. 高度な専門的知識・技能及び研究力	2. 学際的領域を理解できる深奥な教養力	3. グローバルな視野と行動力	4. 地域社会を牽引するリーダー力
<p>本専攻では、歴史学、考古学、民俗学、日本・東アジアの言語と文学、欧米の言語と文学、英語教育学、現代文化資源学の諸領域について専門的知識を獲得するためにカリキュラムを編成している。文化行政・学芸員、高校国語教員、英語教育の各専門職コースにおいては、加えて実習、演習等の実践的なカリキュラムを、歴史学、日本・東アジア文化学、欧米文化学、現代文化資源学の各研究コースでは、文献・史料の読解・分析能力を修得するようカリキュラムを編成している。</p>	<p>文化行政・学芸員専門職コースでは、文化財行政等に関する共通プログラムと専門教育プログラムを組み合わせ、高校国語教員専門職コースでは、関連科目を幅広く、英語教育専門職コースでは、言語学・教育学・心理学等の学際的領域と関わる科目を履修させている。研究コースでは、日本、東アジア、欧米の文化を分野横断的及び学際的に捉え研究できる能力を育成しており、専攻としてカリキュラムを学際的に構成している。</p>	<p>グローバルな実践能力を修得するカリキュラムを編成している。英語教育専門職コースでは、異文化理解のための教育実践能力を高める科目を提供している。日本、東アジアを含む広い視野に立脚した研究能力を修得するため、歴史学研究コースと現代文化資源学研究コースでは実習・実地調査を、日本・東アジア文化学研究コースでは、フィールドワーク等の方法論を実施する。欧米文化学研究コースでは、外国の大学等での修得単位を修了要件単位に算入している。</p>	<p>地域のリーダー力を育成するカリキュラムを編成している。文化行政・学芸員専門職コースでは、地域の文化行政を担当する能力の修得を目的として、インターンシップ等をカリキュラム化している。高校国語教員、英語教育専門職コースでは、地域の現職高校教員を対象に、実践的指導力を育成する演習科目等を提供している。歴史学研究コースでは、地域の歴史研究とともに、遺跡や古文書、地域の民俗を対象とした調査実習を行っている。現代文化資源学研究コースでは、国・地方公共団体、地元企業等と協力した文化事業への参画の機会を、実習等を通じて提供する。</p>

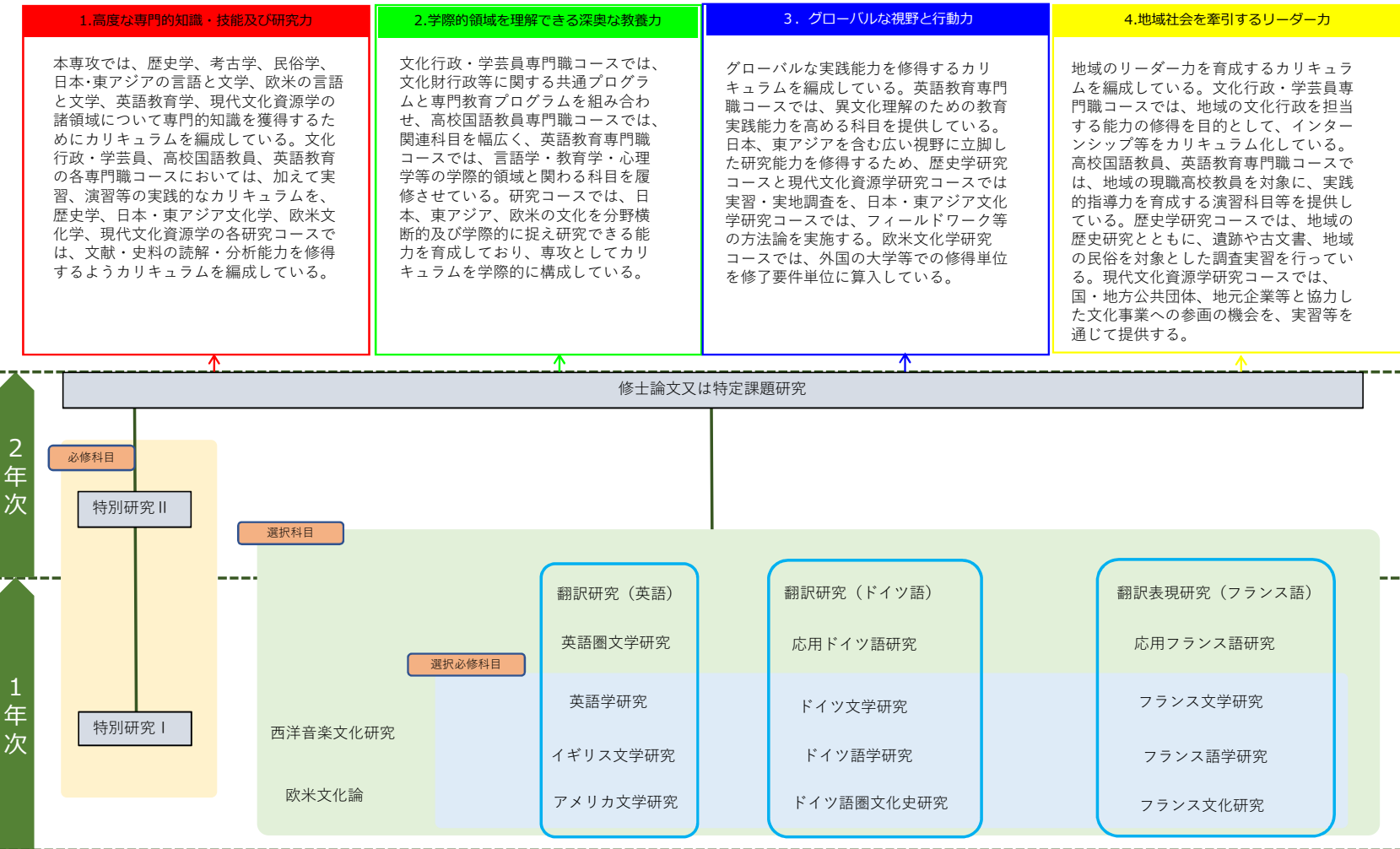


## 社会文化科学教育部前期課程 文化学専攻 欧米文化学研究コース カリキュラムツリー

### ディプロマポリシー：

当該課程の標準修業年限2年以上在学し、特別研究I（4単位）及び指定されている必修科目を含めて26単位以上修得し、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文又は特定の課題に関する研究の成果の審査及び最終試験に合格すれば特別研究II（4単位）が認定され、本専攻を修了することができる。修了した者には、修士の学位が授与される。

カリキュラムポリシー：本専攻は、文化行政・学芸員専門職コース、高校国語教員専門職コース、英語教育専門職コースの3専門職コースと歴史学研究コース、日本・東アジア文化学研究コース、欧米文化学研究コース、現代文化資源学研究コースの4研究コースからなる。歴史学・考古学・民俗学・言語・文学等の諸領域において、専門職コースでは、学術的知見を基盤に実践的能力を養い高度専門職業人を養成する観点から、履修計画に従った科目を段階的に設定し、研究コースでは、それぞれの学術領域の基礎を修め、博士後期課程において専門を深めうる研究の担い手を養成する観点からカリキュラムを編成している。1年次にタームペーパー、2年次に修士論文等を提出する。



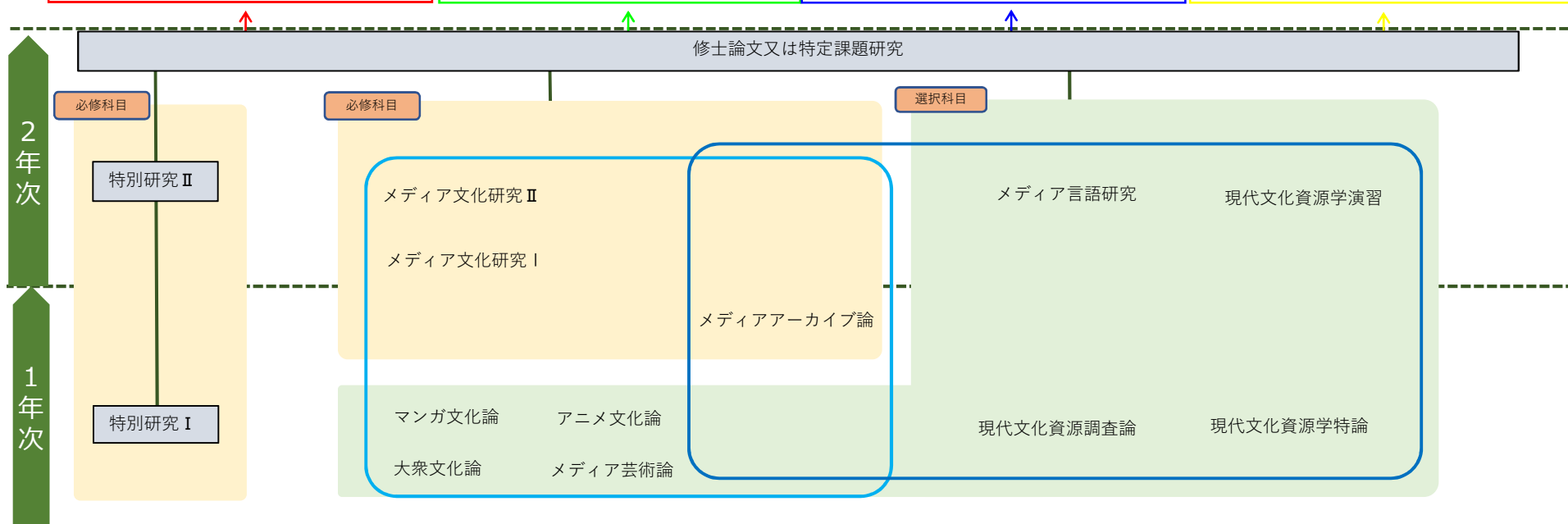
# 社会文化科学教育部前期課程 文化学専攻 現代文化資源学研究コース カリキュラムツリー

## ディプロマポリシー：

当該課程の標準修業年限2年以上在学し、特別研究Ⅰ（4単位）及び指定されている必修科目を含めて26単位以上修得し、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文又は特定の課題に関する研究成果（以下「修士論文等」という。）の審査及び最終試験に合格すれば特別研究Ⅱ（4単位）が認定され、本専攻を修了することができる。修了した者には、修士の学位が授与される。

**カリキュラムポリシー：**本専攻は、文化行政・学芸員専門職コース、高校国語教員専門職コース、英語教育専門職コースの3専門職コースと歴史学研究コース、日本・東アジア文化学研究コース、欧米文化学研究コース、現代文化資源学研究コースの4研究コースからなる。歴史学・考古学・民俗学・言語・文学等の諸領域において、専門職コースでは、学術的知見を基盤に実践的能力を養い高度専門職業人を養成する観点から、履修計画に従った科目を段階的に設定し、研究コースでは、それぞれの学術領域の基礎を修め、博士後期課程において専門を深めうる研究の担い手を養成する観点からカリキュラムを編成している。1年次にタームペーパー、2年次に修士論文等を提出する。

1. 高度な専門的知識・技能及び研究力	2. 学際的領域を理解できる深奥な教養力	3. グローバルな視野と行動力	4. 地域社会を牽引するリーダー力
<p>本専攻では、歴史学、考古学、民俗学、日本・東アジアの言語と文学、欧米の言語と文学、英語教育学、現代文化資源学の諸領域について専門的知識を獲得するためにカリキュラムを編成している。文化行政・学芸員、高校国語教員、英語教育の各専門職コースにおいては、加えて実習、演習等の実践的なカリキュラムを、歴史学、日本・東アジア文化学、欧米文化学の各研究コースでは、文献・史料の読解・分析能力を修得するようカリキュラムを編成している。</p>	<p>文化行政・学芸員専門職コースでは、文化財行政等に関する共通プログラムと専門教育プログラムを組み合わせ、高校国語教員専門職コースでは、関連科目を幅広く、英語教育専門職コースでは、言語学・教育学・心理学等の学際的領域と関わる科目を履修させている。研究コースでは、日本、東アジア、欧米の文化を分野横断的及び学際的に捉え研究できる能力を育成しており、専攻としてカリキュラムを学際的に構成している。</p>	<p>グローバルな実践能力を修得するカリキュラムを編成している。英語教育専門職コースでは、異文化理解のための教育実践能力を高める科目を提供している。日本、東アジアを含む広い視野に立脚した研究能力を修得するため、歴史学研究コースと現代文化資源学研究コースでは実習・実地調査を、日本・東アジア文化学研究コースでは、フィールドワーク等の方法論を実施する。欧米文化学研究コースでは、外国の大学等での修得単位を修了要件単位に算入している。</p>	<p>地域のリーダー力を育成するカリキュラムを編成している。文化行政・学芸員専門職コースでは、地域の文化行政を担当する能力の修得を目的として、インターンシップ等をカリキュラム化している。高校国語教員、英語教育専門職コースでは、地域の現職高校教員を対象に、実践的指導力を育成する演習科目等を提供している。歴史学研究コースでは、地域の歴史研究とともに、遺跡や古文書、地域の民俗を対象とした調査実習を行っている。現代文化資源学研究コースでは、国・地方公共団体、地元企業等と協力した文化事業への参画の機会を、実習等を通じて提供する。</p>



# 社会文化科学教育部前期課程 教授システム学専攻 カリキュラムツリー

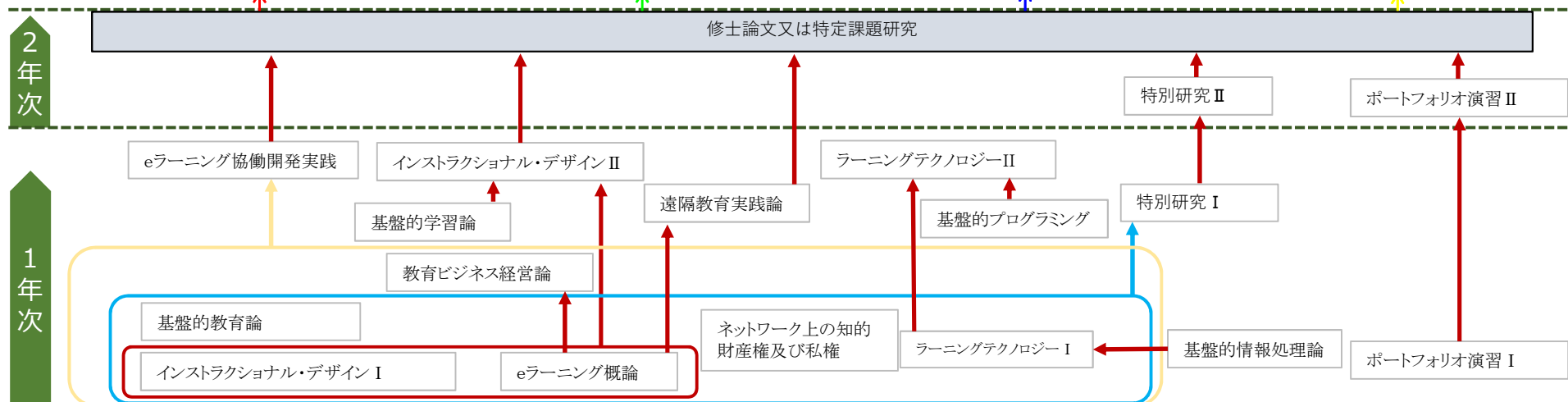
## ディプロマポリシー：

当該課程の標準修業年限2年以上在学し、修了要件単位数30単位以上（必修科目:22単位、選択科目:8単位以上）を修得し、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文又は特定の課題に関する研究の成果（以下「特定課題研究等」という。）の審査及び最終試験に合格すれば本専攻を修了することができる。修了した者には、修士の学位が授与される。ただし、優れた業績を挙げた者は、1年又は1年半の在学で修了することができる。

## カリキュラムポリシー：

本専攻では、eラーニングを概観する入門科目の直後に教授システム学専攻の4つの柱（「インストラクショナルデザイン」、「情報通信技術」、「知的財産権」、「マネジメント」）の必修基礎科目を配置し、それらで修得した基礎知識・スキルを多様な実践の場面に応用する科目やそれぞれの柱を深める科目での学修へと進む、螺旋形カリキュラムを編成する。修了生コンピテンシーのうち、コア12個は必須科目で充当し、全員が達成できるように体系化する。一方で、オプション7個は選択科目で充当し、広範囲の専門性を追究可能にする。能力修得に直結した実践的な課題を各科目に設けて構造化し、前提科目を各科目に設定して後続科目を系列化する。

1. 高度な専門的知識・技能及び研究力	2. 学際的領域を理解できる深奥な教養力	3. グローバルな視野と行動力	4. 地域社会を牽引するリーダーカ
<p>高度専門職業人となるために必要な専門的知識・技能を修了生コンピテンシーとして定めて専攻Webサイトで公開している（<a href="http://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/gsis/concept_2/">http://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/gsis/concept_2/</a>）。各科目の課題はコンピテンシーに直結させることで、応用レベルでの専門的知識・技能の修得を確実にし、最終試験ではポートフォリオ評価でその修得度を自ら確認させる。さらに、修士論文または特定課題研究等に取り組む中で、専門的知識・技能の高度化を図ると同時に、基礎的な研究力修得の機会を提供する。</p>	<p>教授システム学はそれ自体が学際的領域であり、教育学的基盤と情報学的基盤の面から教養力の基礎を構築する科目を提供する。また、広範な領域でステークホルダごとの着眼点に即した提案を行う力を培う選択科目を情報リテラシー・外国語教育・職業人教育訓練・高等教育・医療教育等の領域別に設ける。また、教授システム学の隣接領域を学べる選択科目群を設定し、高度で普遍性のある教養力、知識統合能力、問題解決力を身に付けるカリキュラムを編成する。</p>	<p>教育におけるグローバルな共通言語である教授システム学の実務に直結した専門知識・技能を修得することで、グローバルな視野と行動力を身に付けるカリキュラムを編成する。また、高等教育機関や民間教育事業者における国際戦略の策定及び展開、国際産学連携、あるいは国際協力の現場、特に人材育成分野におけるeラーニング導入の視点を扱う選択科目群を設定することにより、グローバルな視野と行動力を身に付ける機会を提供する。</p>	<p>コアコンピテンシーの一つ「開発チームのリーダーとして、コース開発プロジェクトを遂行できる」に関連する課題に取り組むことにより、特に教育の側面から地域社会を牽引する各種プロジェクト遂行能力並びにリーダーカを身に付ける機会を全員に提供する。さらに、マネジメント系の選択科目の修得により、人事戦略やマーケットニーズに基づいて教育サービス・教育ビジネスの戦略を提案できる能力を修得する機会を提供する。</p>



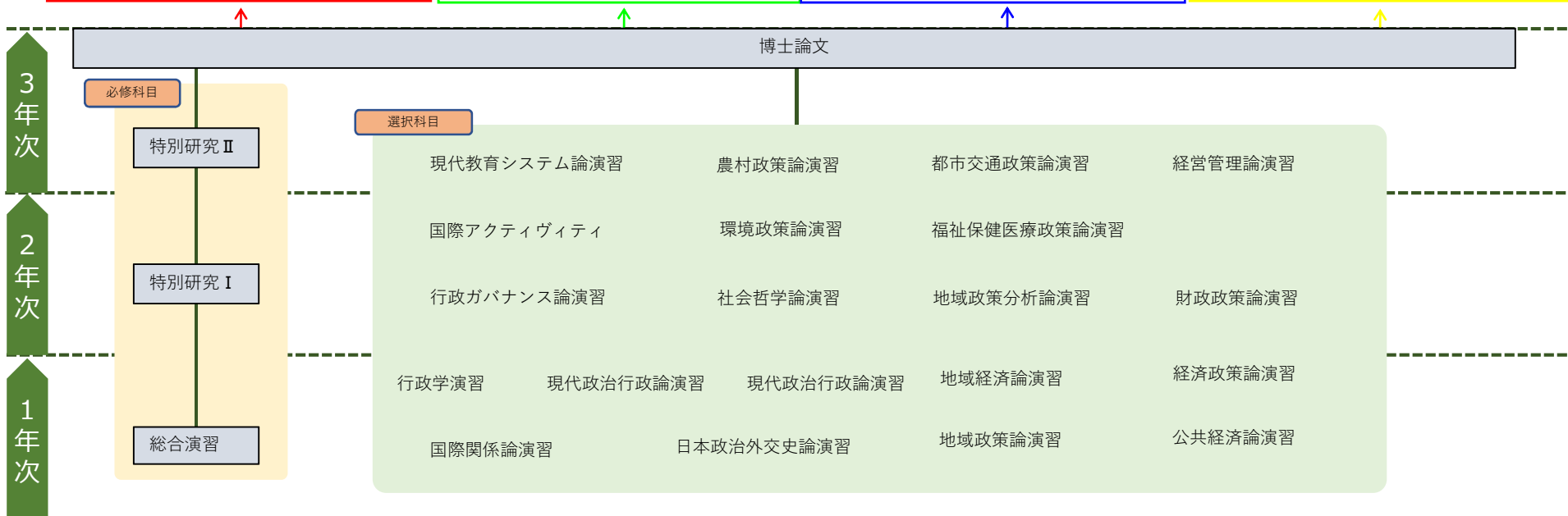
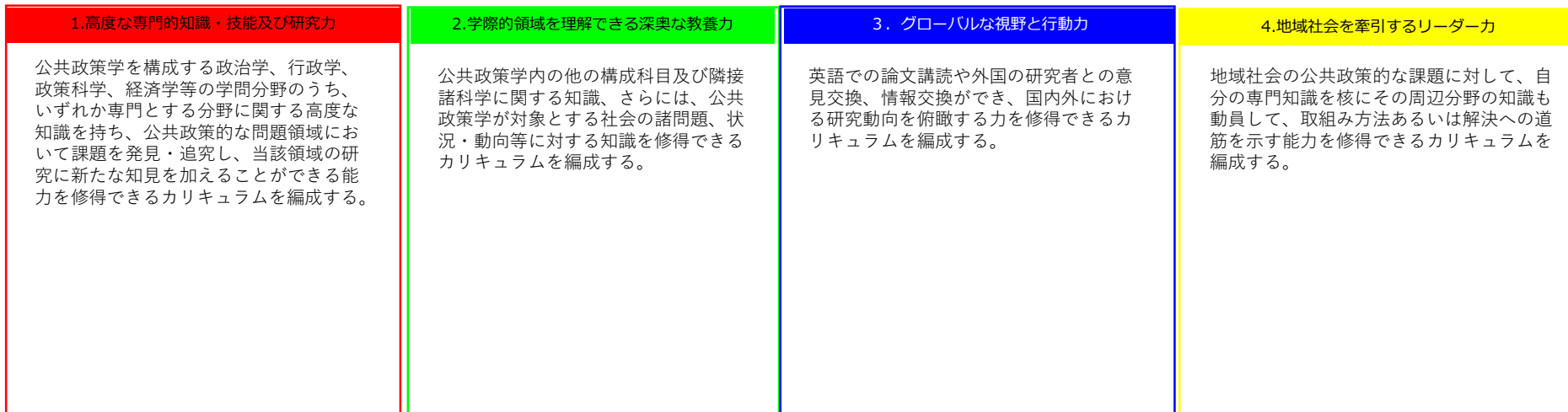


# 社会文化科学教育部後期課程 人間・社会科学専攻 公共政策学領域 カリキュラムツリー

## ディプロマポリシー：

学位は、博士後期課程を修了した者に対して授与する。修了の要件は、本課程に3年以上在学し、所定の単位（必修科目を含む14単位以上）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、学位論文の審査及び最終試験に合格することが必要である。ただし、優れた業績を上げた者は、2年の在学で修了することができる。

カリキュラムポリシー：本専攻は、公共政策学、法学、交渉紛争解決学、先端倫理学、フィールドリサーチ、認知哲学・心理学の6領域からなる。博士前期課程の法政・紛争解決学専攻、現代社会人間学専攻を受けて、法学、政治学、経済学、経営学、コミュニケーション情報学、比較文化・社会論、哲学、倫理学、社会学、地域社会学、文化人類学、地理学、言語学、芸術学、心理学等各領域及びそれらを融合して構築される諸領域において、学術研究の発展を担うために必要な知識・能力を修得できるカリキュラムを編成する。

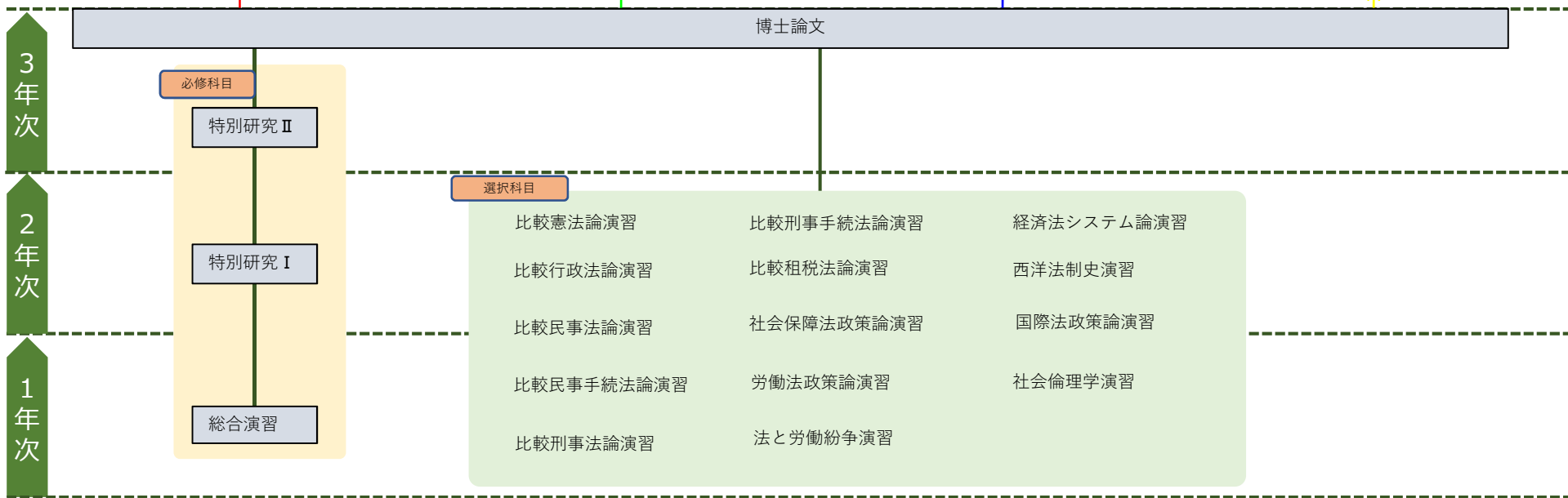
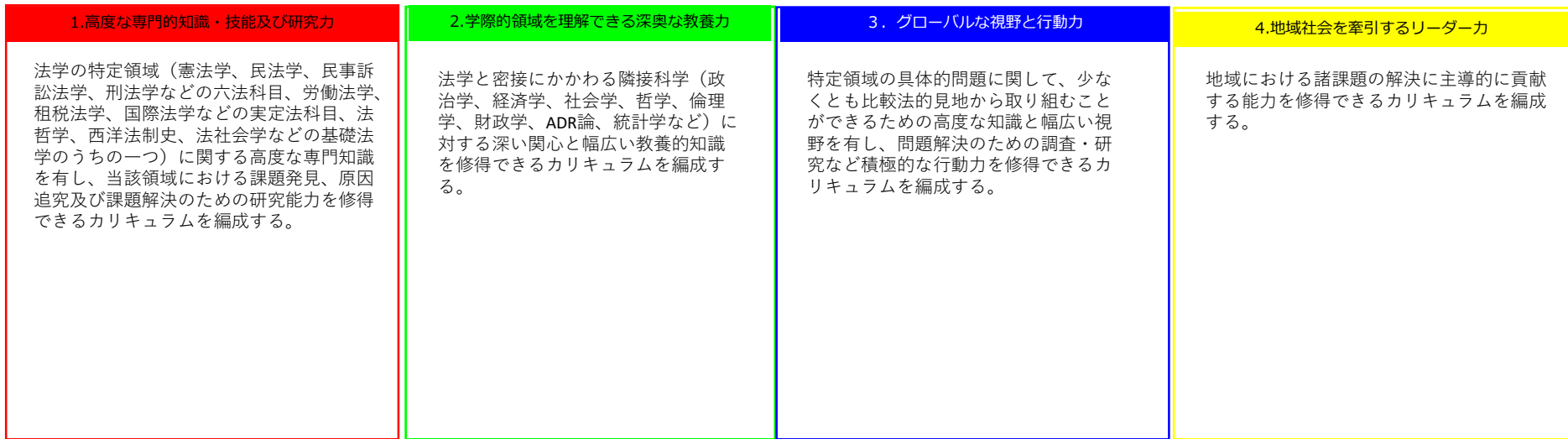


# 社会文化科学教育部後期課程 人間・社会科学専攻 法学領域 カリキュラムツリー

## ディプロマポリシー：

学位は、博士後期課程を修了した者に対して授与する。修了の要件は、本課程に3年以上在学し、所定の単位（必修科目を含む14単位以上）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、学位論文の審査及び最終試験に合格することが必要である。ただし、優れた業績を上げた者は、2年の在学で修了することができる。

カリキュラムポリシー：本専攻は、公共政策学、法学、交渉紛争解決学、先端倫理学、フィールドリサーチ、認知哲学・心理学の6領域からなる。博士前期課程の法政・紛争解決学専攻、現代社会人間学専攻を受けて、法学、政治学、経済学、経営学、コミュニケーション情報学、比較文化・社会論、哲学、倫理学、社会学、地域社会学、文化人類学、地理学、言語学、芸術学、心理学等各領域及びそれらを融合して構築される諸領域において、学術研究の発展を担うために必要な知識・能力を修得できるカリキュラムを編成する。



# 社会文化科学教育部後期課程 人間・社会科学専攻 交渉紛争解決学領域 カリキュラムツリー

## ディプロマポリシー：

学位は、博士後期課程を修了した者に対して授与する。修了の要件は、本課程に3年以上在学し、所定の単位（必修科目を含む14単位以上）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、学位論文の審査及び最終試験に合格することが必要である。ただし、優れた業績を上げた者は、2年の在学で修了することができる。

カリキュラムポリシー：本専攻は、公共政策学、法学、交渉紛争解決学、先端倫理学、フィールドリサーチ、認知哲学・心理学の6領域からなる。博士前期課程の法政・紛争解決学専攻、現代社会人間学専攻を受けて、法学、政治学、経済学、経営学、コミュニケーション情報学、比較文化・社会論、哲学、倫理学、社会学、地域社会学、文化人類学、地理学、言語学、芸術学、心理学等各領域及びそれらを融合して構築される諸領域において、学術研究の発展を担うために必要な知識・能力を修得できるカリキュラムを編成する。

### 1. 高度な専門的知識・技能及び研究力

コミュニケーション論、実践的価値論、交渉論、紛争解決論、組織マネジメント論などの視点から、問題事例・交渉事例・紛争事例の分析を重ね、交渉による紛争解決と合意形成の理論と技法について高度な知識を修得できるカリキュラムを編成する。

### 2. 学際的領域を理解できる深奥な教養力

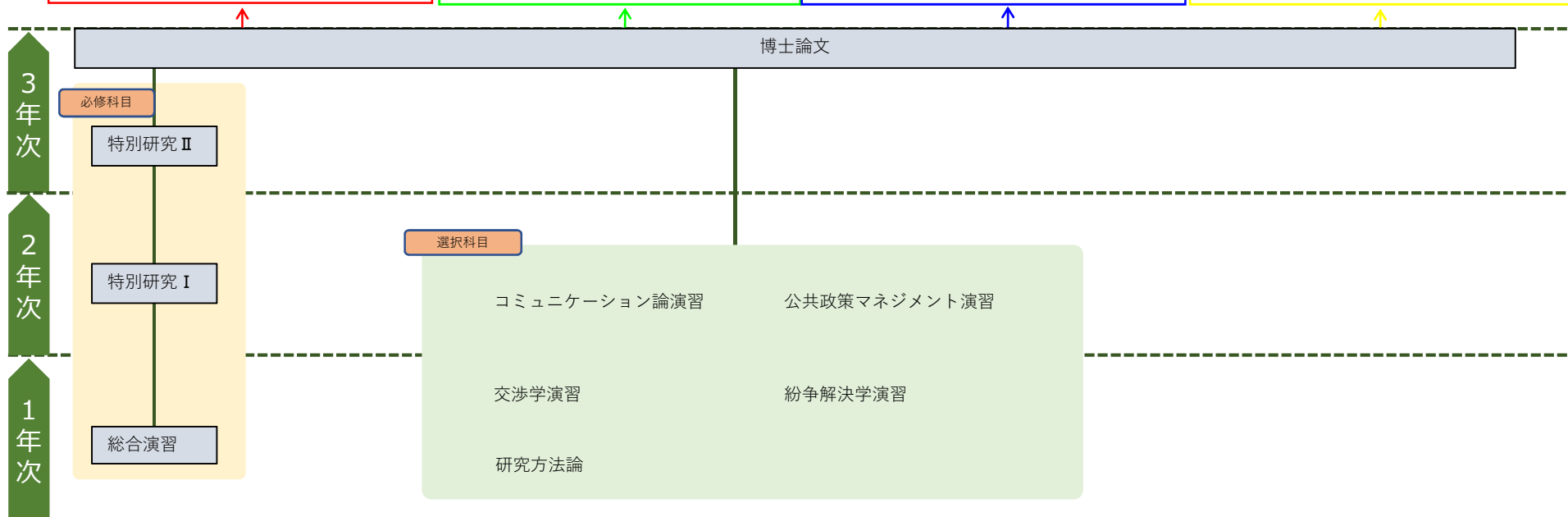
学修科目を通して紛争解決の専門家に要求される理解力・洞察力を、また、分野横断的な演習科目を通してコンフリクトに対する柔軟な研究態度を修得できるカリキュラムを編成する。

### 3. グローバルな視野と行動力

交渉による紛争解決と合意形成の理論と技法について高度な知識を身に付けることにより、実社会の紛争場面におけるグローバルな実践的能力を修得できるカリキュラムを編成する。

### 4. 地域社会を牽引するリーダー力

交渉による紛争解決と合意形成の理論と技法について高度な知識を身に付けることにより、実社会の紛争場面における地域社会のリーダーとして、実践的な能力を修得できるカリキュラムを編成する。

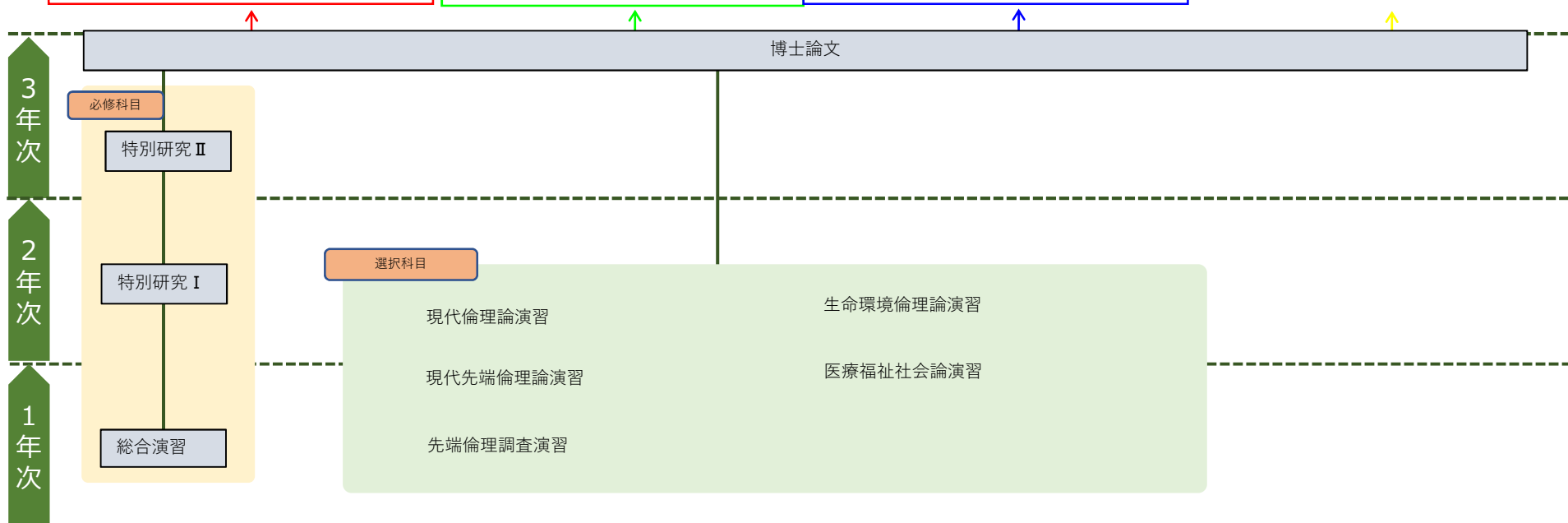
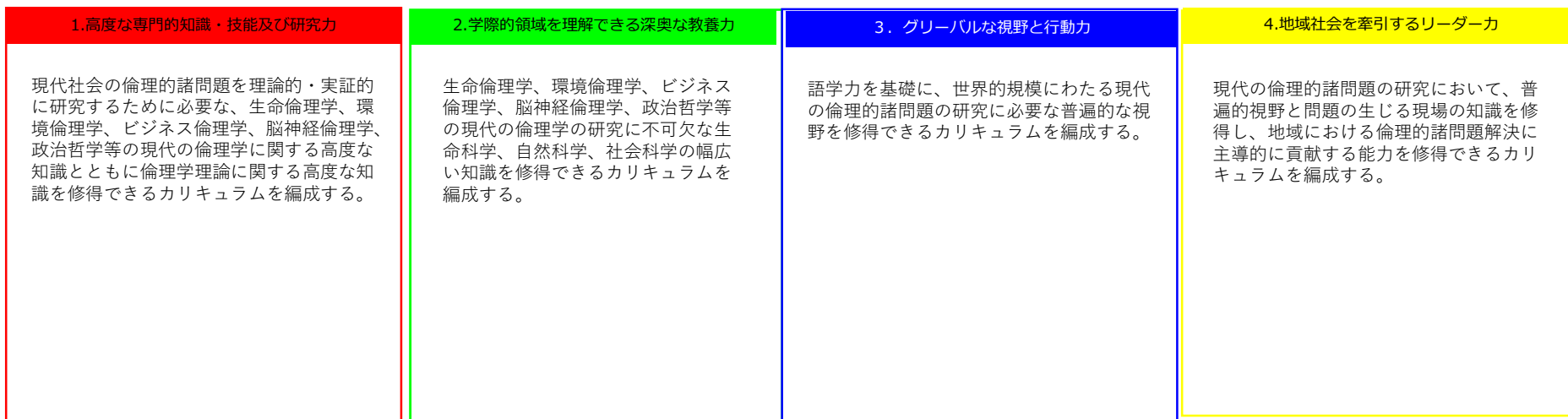


# 社会文化科学教育部後期課程 人間・社会科学専攻 先端倫理学領域 カリキュラムツリー

## ディプロマポリシー：

学位は、博士後期課程を修了した者に対して授与する。修了の要件は、本課程に3年以上在学し、所定の単位（必修科目を含む14単位以上）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、学位論文の審査及び最終試験に合格することが必要である。ただし、優れた業績を上げた者は、2年の在学で修了することができる。

カリキュラムポリシー：本専攻は、公共政策学、法学、交渉紛争解決学、先端倫理学、フィールドリサーチ、認知哲学・心理学の6領域からなる。博士前期課程の法政・紛争解決学専攻、現代社会人間学専攻を受けて、法学、政治学、経済学、経営学、コミュニケーション情報学、比較文化・社会論、哲学、倫理学、社会学、地域社会学、文化人類学、地理学、言語学、芸術学、心理学等各領域及びそれらを融合して構築される諸領域において、学術研究の発展を担うために必要な知識・能力を修得できるカリキュラムを編成する。

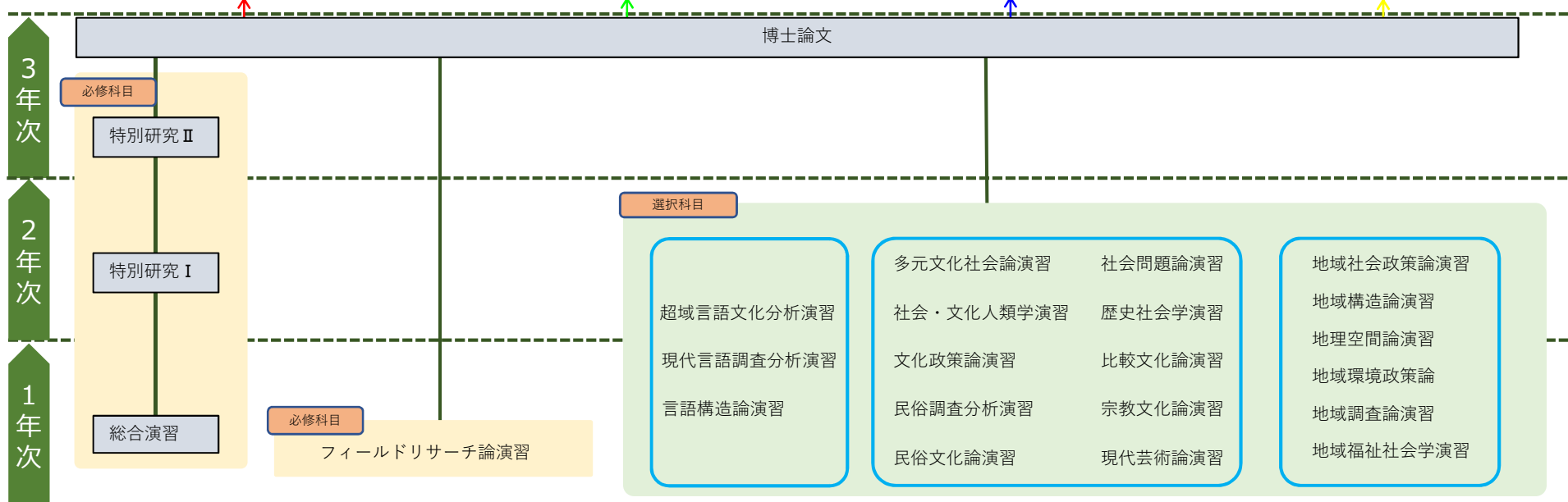
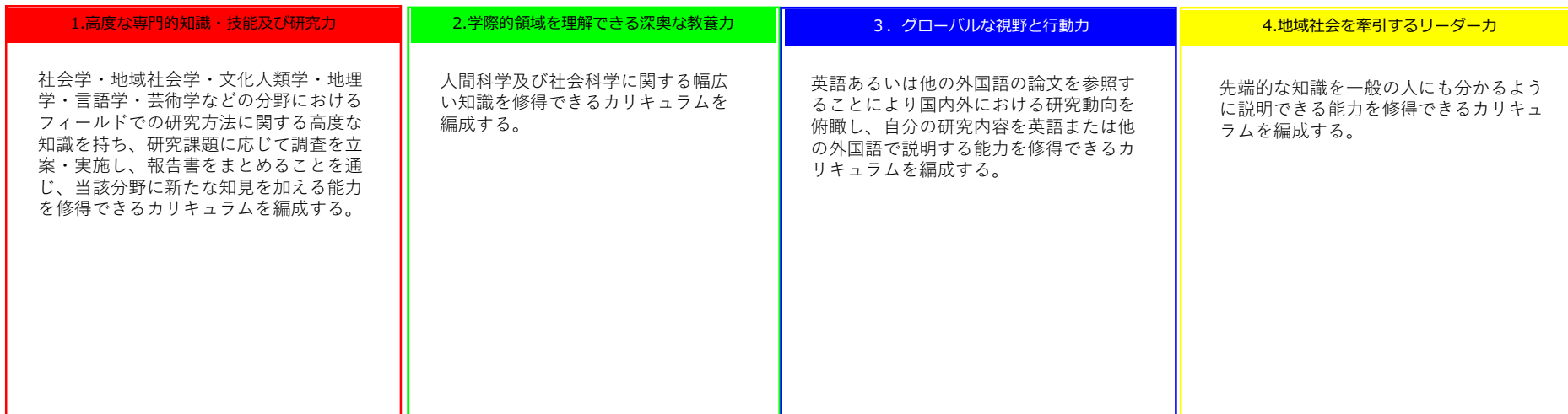


# 社会文化科学教育部後期課程 人間・社会科学専攻 フィールドリサーチ領域 カリキュラムツリー

## ディプロマポリシー：

学位は、博士後期課程を修了した者に対して授与する。修了の要件は、本課程に3年以上在学し、所定の単位（必修科目を含む14単位以上）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、学位論文の審査及び最終試験に合格することが必要である。ただし、優れた業績を上げた者は、2年の在学で修了することができる。

カリキュラムポリシー：本専攻は、公共政策学、法学、交渉紛争解決学、先端倫理学、フィールドリサーチ、認知哲学・心理学の6領域からなる。博士前期課程の法政・紛争解決学専攻、現代社会人間学専攻を受けて、法学、政治学、経済学、経営学、コミュニケーション情報学、比較文化・社会論、哲学、倫理学、社会学、地域社会学、文化人類学、地理学、言語学、芸術学、心理学等各領域及びそれらを融合して構築される諸領域において、学術研究の発展を担うために必要な知識・能力を修得できるカリキュラムを編成する。

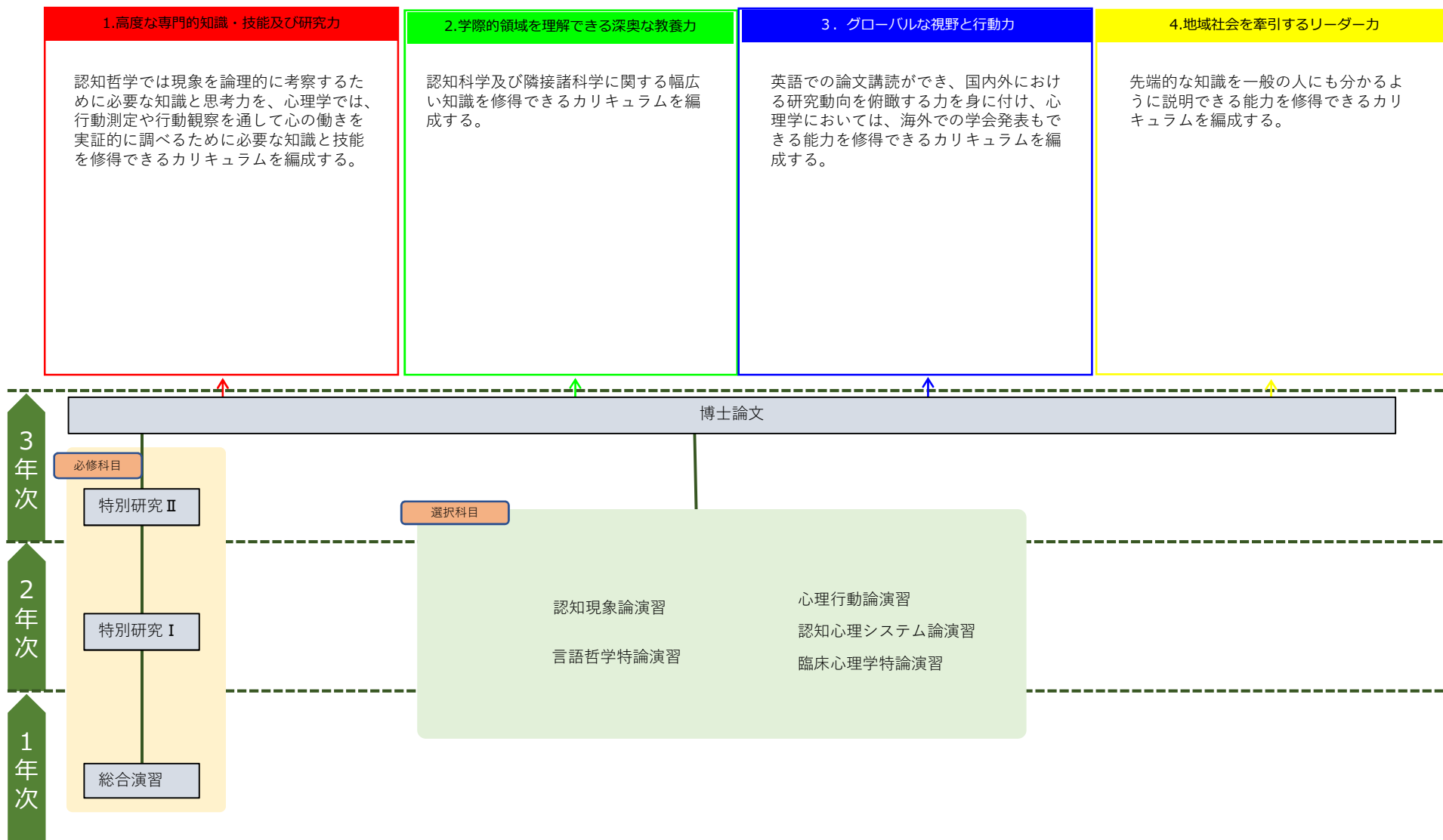


## 社会文化科学教育部後期課程 人間・社会科学専攻 認知哲学・心理学領域 カリキュラムツリー

### ディプロマポリシー：

学位は、博士後期課程を修了した者に対して授与する。修了の要件は、本課程に3年以上在学し、所定の単位（必修科目を含む14単位以上）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、学位論文の審査及び最終試験に合格することが必要である。ただし、優れた業績を上げた者は、2年の在学で修了することができる。

カリキュラムポリシー：本専攻は、公共政策学、法学、交渉紛争解決学、先端倫理学、フィールドリサーチ、認知哲学・心理学の6領域からなる。博士前期課程の法政・紛争解決学専攻、現代社会人間学専攻を受けて、法学、政治学、経済学、経営学、コミュニケーション情報学、比較文化・社会論、哲学、倫理学、社会学、地域社会学、文化人類学、地理学、言語学、芸術学、心理学等各領域及びそれらを融合して構築される諸領域において、学術研究の発展を担うために必要な知識・能力を修得できるカリキュラムを編成する。



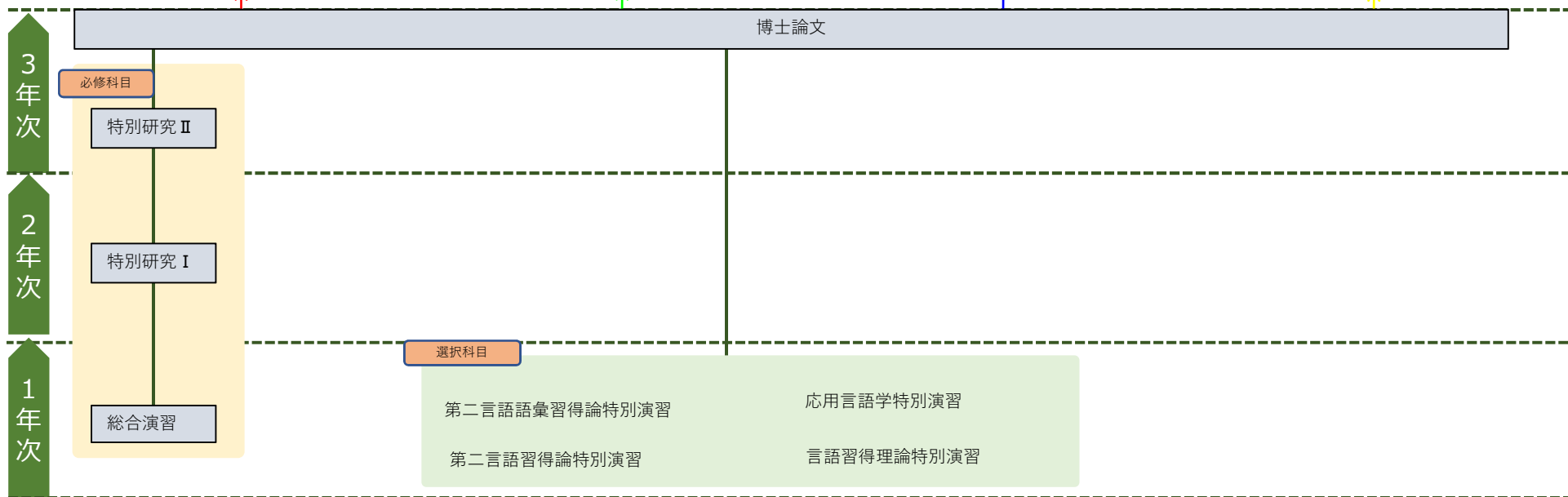
# 社会文化科学教育部後期課程 文化学専攻 英語教授学領域 カリキュラムツリー

## ディプロマポリシー：

学位は、当該課程を修了した者に対して授与する。修了の要件は、当該課程に3年以上在学し、所定の単位（必修科目を含む14単位以上）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、学位論文の審査及び最終試験に合格することが必要である。ただし、優れた業績を上げた者は、2年の在学で修了することができる。

**カリキュラムポリシー：**本専攻は英語教授学、歴史学、日本・東アジア文化学、欧米文化学の4領域からなる。前期課程での高度専門職、研究者育成カリキュラムを引き継ぎ、より高度な知識・能力を修得しうるカリキュラム構成を行っている。授業科目は、主として(1)総合演習（1年次の必修科目であり、最新の理論や実践的成果を扱うゼミナールと研究計画・経過の発表討論を行う）、(2)個別演習（(1)以上に専門的な分野に即した調査・分析能力の強化を目標とする科目であり、内容に応じてゼミナール、フィールドワークまたはワークショップが行われる）、(3)特論（より高度な知識、応用力を修得する科目で、講義やワークショップ形式で行う）、(4)特別研究（複数の指導教員からの博士論文作成に向けての個別指導）からなる。これらに加えて、研究経過報告会（年に1度行われ、在学中2回発表することが義務づけられている）、ならびに教員と学生の共同研究プロジェクト（「プロジェクト研究」として単位化）を実施している。

1. 高度な専門的知識・技能及び研究力	2. 学際的領域を理解できる深奥な教養力	3. グローバルな視野と行動力	4. 地域社会を牽引するリーダー力
<p>各領域において、特論・演習・特別研究を各々実施している。そこでは、本専攻を構成する英語教授学、歴史学、考古学、民俗学、語学、文学における最新の研究成果、現在における各学会での論点や新たな説を学び、史資料を用いた読解、遺跡や現場における調査・発掘・記録、調査資料分析と論文構成等々、高度な学問的訓練を実施している。研究活動を行う上で必要な専門的かつ実践的知識・技能を修得しうるカリキュラム構成となっている。</p>	<p>英語教授学、歴史学、考古学、民俗学、語学、文学の専門学問領域で、本専攻の各領域は構成される。一方で、理論、応用論、方法論や、社会構造論、社会規範論、文化行政論、そして調査分析論、経営・社会論等、各専門領域に共通するテーマによる特論、演習を設けている。所属学生は、専門・領域を超えてこれらを相互に受講することが可能である。カリキュラムは学際的に構成されている。</p>	<p>英語教授学領域では英語を介したグローバル化への対応力を育成するための理論、方法、実践についての演習が生まれ、歴史学領域では日本・東洋・西洋・北アジアと世界を網羅する歴史学、考古学の演習・特論が生まれ、日本・東アジア文化学領域、欧米文化学領域では日本・中国から英米・ドイツ・フランスに至る文学・語学と、民俗文化調査の特論・演習が生まれ、グローバルな行動力を養成するカリキュラム構成となっている。</p>	<p>英語教授学領域では地域における英語教員のリーダー育成を目的として、応用言語学、第二言語習得論等の特別演習をカリキュラム化している。また歴史学領域の遺跡遺物論、文書群解析の演習と文化行政特論、日本・東アジア文化学領域の民俗調査分析特論等は、地方の行政調査として行われる文化資源調査のエキスパートを育成するカリキュラムであり、文化資源の発掘・調査・利活用等、文化行政面でのリーダー力を養成するカリキュラム構成となっている。</p>



## 社会文化科学教育部後期課程 文化学専攻 歴史学領域 カリキュラムツリー

### ディプロマポリシー：

学位は、当該課程を修了した者に対して授与する。修了の要件は、当該課程に3年以上在学し、所定の単位（必修科目を含む14単位以上）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、学位論文の審査及び最終試験に合格することが必要である。ただし、優れた業績を上げた者は、2年の在学で修了することができる。

**カリキュラムポリシー：**本専攻は英語教授学、歴史学、日本・東アジア文化学、欧米文化学の4領域からなる。前期課程での高度専門職、研究者育成カリキュラムを引き継ぎ、より高度な知識・能力を修得しうるカリキュラム構成を行っている。授業科目は、主として(1)総合演習（1年次の必修科目であり、最新の理論や実践的成果を扱うゼミナールと研究計画・経過の発表討論を行う）、(2)個別演習（(1)以上に専門的な分野に即した調査・分析能力の強化を目標とする科目であり、内容に応じてゼミナール、フィールドワークまたはワークショップが行われる）、(3)特論（より高度な知識、応用力を修得する科目で、講義やワークショップ形式で行う）、(4)特別研究（複数の指導教員からの博士論文作成に向けての個別指導）からなる。これらに加えて、研究経過報告会（年に1度行われ、在学中2回発表することが義務づけられている）、ならびに教員と学生の共同研究プロジェクト（「プロジェクト研究」として単位化）を実施している。

1. 高度な専門的知識・技能及び研究力	2. 学際的領域を理解できる深奥な教養力	3. グローバルな視野と行動力	4. 地域社会を牽引するリーダー力
<p>各領域において、特論・演習・特別研究を各々実施している。そこでは、本専攻を構成する英語教授学、歴史学、考古学、民俗学、語学、文学における最新の研究成果、現在における各学会での論点や新たな説を学び、史資料を用いた読解、遺跡や現場における調査・発掘・記録、調査資料分析と論文構成等々、高度な学問的訓練を実施している。研究活動を行う上で必要な専門的かつ実践的知識・技能を修得しうるカリキュラム構成となっている。</p>	<p>英語教授学、歴史学、考古学、民俗学、語学、文学の専門学問領域で、本専攻の各領域は構成される。一方で、理論、応用論、方法論や、社会構造論、社会規範論、文化行政論、そして調査分析論、経営・社会論等、各専門領域に共通するテーマによる特論、演習を設けている。所属学生は、専門・領域を超えてこれらを相互に受講することが可能である。カリキュラムは学際的に構成されている。</p>	<p>英語教授学領域では英語を介したグローバル化への対応力を育成するための理論、方法、実践についての演習が生まれ、歴史学領域では日本・東洋・西洋・北アジアと世界を網羅する歴史学、考古学の演習・特論が生まれ、日本・東アジア文化学領域、欧米文化学領域では日本・中国から英米・ドイツ・フランスに至る文学・語学と、民俗文化調査の特論・演習が生まれ、グローバルな行動力を養成するカリキュラム構成となっている。</p>	<p>英語教授学領域では地域における英語教員のリーダー育成を目的として、応用言語学、第二言語習得論等の特別演習をカリキュラム化している。また歴史学領域の遺跡遺物論、文書群解析の演習と文化行政特論、日本・東アジア文化学領域の民俗調査分析特論等は、地方の行政調査として行われる文化資源調査のエキスパートを育成するカリキュラムであり、文化資源の発掘・調査・利活用等、文化行政面でのリーダー力を養成するカリキュラム構成となっている。</p>





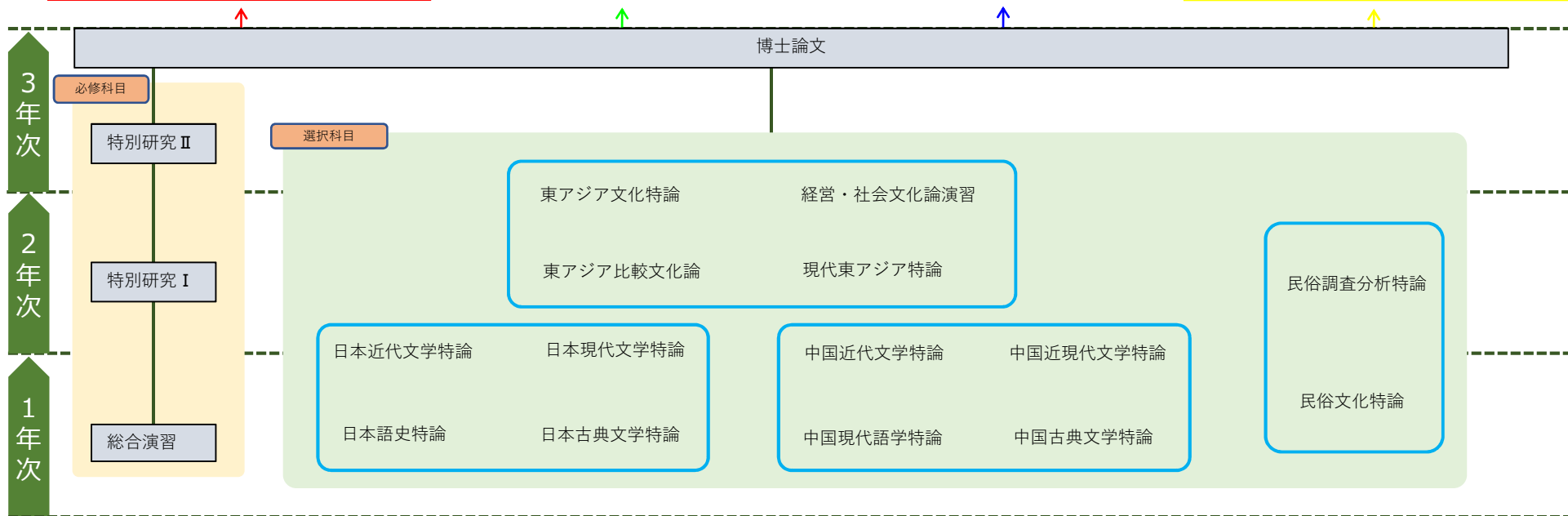
# 社会文化科学教育部後期課程 文化学専攻 日本・東アジア文化学領域 カリキュラムツリー

## ディプロマポリシー：

学位は、当該課程を修了した者に対して授与する。修了の要件は、当該課程に3年以上在学し、所定の単位（必修科目を含む14単位以上）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、学位論文の審査及び最終試験に合格することが必要である。ただし、優れた業績を上げた者は、2年の在学で修了することができる。

**カリキュラムポリシー：**本専攻は英語教授学、歴史学、日本・東アジア文化学、欧米文化学の4領域からなる。前期課程での高度専門職、研究者育成カリキュラムを引き継ぎ、より高度な知識・能力を修得しうるカリキュラム構成を行っている。授業科目は、主として(1)総合演習（1年次の必修科目であり、最新の理論や実践的成果を扱うゼミナールと研究計画・経過の発表討論を行う）、(2)個別演習（(1)以上に専門的な分野に即した調査・分析能力の強化を目標とする科目であり、内容に応じてゼミナール、フィールドワークまたはワークショップが行われる）、(3)特論（より高度な知識、応用力を修得する科目で、講義やワークショップ形式で行う）、(4)特別研究（複数の指導教員からの博士論文作成に向けての個別指導）からなる。これらに加えて、研究経過報告会（年に1度行われ、在学中2回発表することが義務づけられている）、ならびに教員と学生の共同研究プロジェクト（「プロジェクト研究」として単位化）を実施している。

1. 高度な専門的知識・技能及び研究力	2. 学際的領域を理解できる深奥な教養力	3. グローバルな視野と行動力	4. 地域社会を牽引するリーダー力
<p>各領域において、特論・演習・特別研究を各々実施している。そこでは、本専攻を構成する英語教授学、歴史学、考古学、民俗学、語学、文学における最新の研究成果、現在における各学会での論点や新たな説を学び、史資料を用いた読解、遺跡や現場における調査・発掘・記録、調査資料分析と論文構成等々、高度な学問的訓練を実施している。研究活動を行う上で必要な専門的かつ実践的知識・技能を修得しうるカリキュラム構成となっている。</p>	<p>英語教授学、歴史学、考古学、民俗学、語学、文学の専門学問領域で、本専攻の各領域は構成される。一方で、理論、応用論、方法論や、社会構造論、社会規範論、文化行政論、そして調査分析論、経営・社会論等、各専門領域に共通するテーマによる特論、演習を設けている。所属学生は、専門・領域を超えてこれらを相互に受講することが可能である。カリキュラムは学際的に構成されている。</p>	<p>英語教授学領域では英語を介したグローバル化への対応力を育成するための理論、方法、実践についての演習が生まれ、歴史学領域では日本・東洋・西洋・北アジアと世界を網羅する歴史学、考古学の演習・特論が生まれ、日本・東アジア文化学領域、欧米文化学領域では日本・中国から英米・ドイツ・フランスに至る文学・語学と、民俗文化調査の特論・演習が生まれ、グローバルな行動力を養成するカリキュラム構成となっている。</p>	<p>英語教授学領域では地域における英語教員のリーダー育成を目的として、応用言語学、第二言語習得論等の特別演習をカリキュラム化している。また歴史学領域の遺跡遺物論、文書群解析の演習と文化行政特論、日本・東アジア文化学領域の民俗調査分析特論等は、地方の行政調査として行われる文化資源調査のエキスパートを育成するカリキュラムであり、文化資源の発掘・調査・利活用等、文化行政面でのリーダー力を養成するカリキュラム構成となっている。</p>



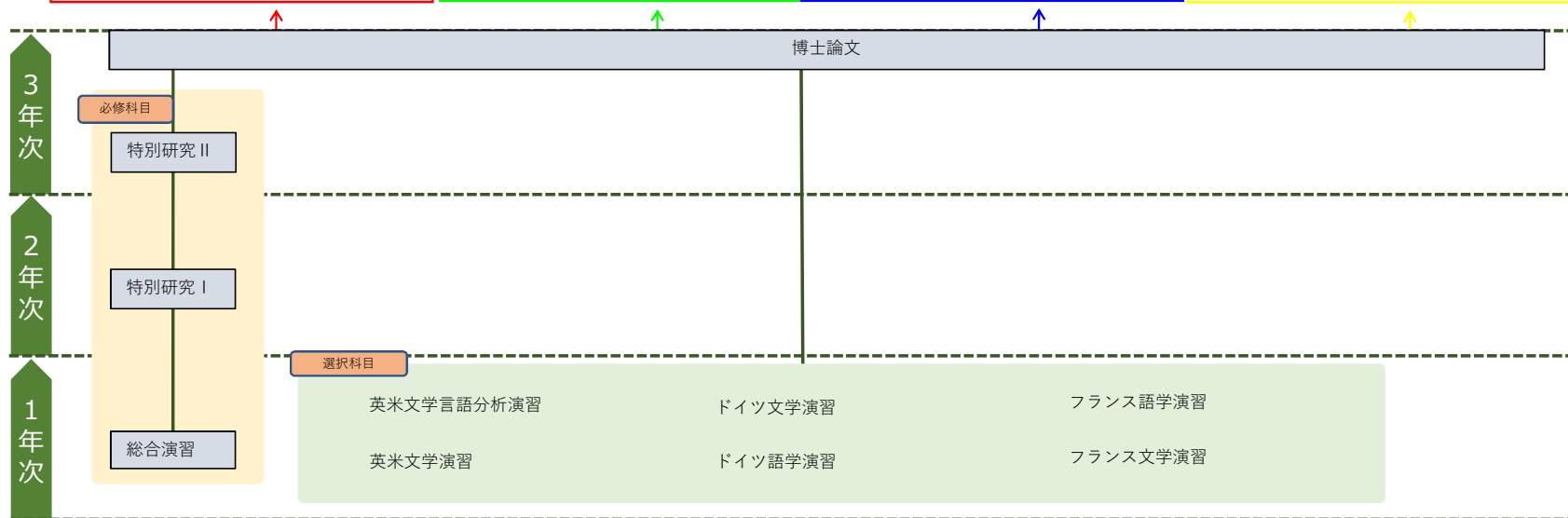
## 社会文化科学教育部後期課程 文化学専攻 欧米文化学領域 カリキュラムツリー

### ディプロマポリシー：

学位は、当該課程を修了した者に対して授与する。修了の要件は、当該課程に3年以上在学し、所定の単位（必修科目を含む14単位以上）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、学位論文の審査及び最終試験に合格することが必要である。ただし、優れた業績を上げた者は、2年の在学で修了することができる。

**カリキュラムポリシー：**本専攻は英語教授学、歴史学、日本・東アジア文化学、欧米文化学の4領域からなる。前期課程での高度専門職、研究者育成カリキュラムを引き継ぎ、より高度な知識・能力を修得しうるカリキュラム構成を行っている。授業科目は、主として(1)総合演習（1年次の必修科目であり、最新の理論や実践的成果を扱うゼミナールと研究計画・経過の発表討論を行う）、(2)個別演習（(1)以上に専門的な分野に即した調査・分析能力の強化を目標とする科目であり、内容に応じてゼミナール、フィールドワークまたはワークショップが行われる）、(3)特論（より高度な知識、応用力を修得する科目で、講義やワークショップ形式で行う）、(4)特別研究（複数の指導教員からの博士論文作成に向けての個別指導）からなる。これらに加えて、研究経過報告会（年に1度行われ、在学中2回発表することが義務づけられている）、ならびに教員と学生の共同研究プロジェクト（「プロジェクト研究」として単位化）を実施している

1. 高度な専門的知識・技能及び研究力	2. 学際的領域を理解できる深奥な教養力	3. グローバルな視野と行動力	4. 地域社会を牽引するリーダー力
<p>各領域において、特論・演習・特別研究を各々実施している。そこでは、本専攻を構成する英語教授学、歴史学、考古学、民俗学、語学、文学における最新の研究成果、現在における各学会での論点や新たな説を学び、史資料を用いた読解、遺跡や現場における調査・発掘・記録、調査資料分析と論文構成等々、高度な学問的訓練を実施している。研究活動を行う上で必要な専門的かつ実践的知識・技能を修得しうるカリキュラム構成となっている。</p>	<p>英語教授学、歴史学、考古学、民俗学、語学、文学の専門学問領域で、本専攻の各領域は構成される。一方で、理論、応用論、方法論や、社会構造論、社会規範論、文化行政論、そして調査分析論、経営・社会論等、各専門領域に共通するテーマによる特論、演習を設けている。所属学生は、専門・領域を超えてこれらを相互に受講することが可能である。カリキュラムは学際的に構成されている。</p>	<p>英語教授学領域では英語を介したグローバル化への対応力を育成するための理論、方法、実践についての演習が生まれ、歴史学領域では日本・東洋・西洋・北アジアと世界を網羅する歴史学、考古学の演習・特論が生まれ、日本・東アジア文化学領域、欧米文化学領域では日本・中国から英米・ドイツ・フランスに至る文学・語学と、民俗文化調査の特論・演習が生まれ、グローバルな行動力を養成するカリキュラム構成となっている。</p>	<p>英語教授学領域では地域における英語教員のリーダー育成を目的として、応用言語学、第二言語習得論等の特別演習をカリキュラム化している。また歴史学領域の遺跡遺物論、文書群解析の演習と文化行政特論、日本・東アジア文化学領域の民俗調査分析特論等は、地方の行政調査として行われる文化資源調査のエキスパートを育成するカリキュラムであり、文化資源の発掘・調査・利活用等、文化行政面でのリーダー力を養成するカリキュラム構成となっている。</p>



## 社会文化科学教育部後期課程 教授システム学専攻 カリキュラムツリー

### ディプロマポリシー：

学位は、当該課程を修了した者に対して授与する。修了の要件は、当該課程を3年以上在学し、所定の単位（必修科目を含む16単位以上）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、学位論文の審査及び最終試験に合格することが必要である。

ただし、優れた業績を上げた者は、2年の在学中で修了することができる。

### カリキュラムポリシー：

本専攻は、教授システム学領域の教育研究者を育成するために、教育学における社会科学的研究方法並びにeラーニングシステムに関する情報学的な研究方法を修得するとともに、教授システム学研究の最新動向を把握し、研究者としての基礎力を修得できるカリキュラムを編成する。

領域全体を概観する「教授システム学研究総論」を必修科目とし、論文執筆を進めるための科目群以外の演習科目は、個々の学生の背景や学問的関心等に応じて柔軟な履修を可能とするため選択科目とする。加えて、博士前期課程における選択科目を博士後期課程における自由科目として位置づけ、さらに広範な学修の機会を提供する。

#### 1. 高度な専門的知識・技能及び研究力

領域全体を概観する「教授システム学研究総論」を必修科目とする上に、社会科学的研究方法並びに情報学的な研究方法についての科目を各2単位以上修得することを義務づけ、両面から研究力の基礎を培う機会を提供する。また、教授システム学研究の最新動向を把握できる科目を広範囲に設置し、個々の学生の研究実績や論文執筆の方向性に応じて適切な科目選択を履修指導により実現する。

#### 2. 学際的領域を理解できる深奥な教養力

教育学領域（社会科学的研究方法論）及び情報学領域（情報学的な研究方法論）に共通する基盤として量的・質的研究法演習を位置づけるとともに、それ自体が学際的領域である教授システム学分野における最新動向を広範囲に把握できる選択科目群を履修することによって、学際的領域を理解できる深奥な教養力を修得できるカリキュラムを編成する。

#### 3. グローバルな視野と行動力

教育におけるグローバルな共通言語である教授システム学研究の最先端を創出する研究を進めることにより、グローバルな視野と行動力を身に付けることができるカリキュラムを編成する。また、国際政策・戦略を研究するための選択科目を提供する。さらに、国際学会等への参加により、研究成果を国内外に発表し、グローバルレベルでの教授システム学の発展に貢献する基礎力と行動力を身に付けるための機会を提供する。

#### 4. 地域社会を牽引するリーダー力

教授システム学研究の最先端を創出する経験を積むことにより、特に教育の側面から地域社会における問題点を抽出し、それを解決するリーダー力を身に付けるための機会を提供する。また、情報学領域での研究手法を適用することにより、地域社会間に共通した問題解決手法の構築の基礎を修得する機会となる選択科目を提供する。

